

至 自明治四年四月
年 月 日
日 日

各國海底電線關係雜件

第
卷

不採用

ノ
ク
4
ノ

1-1765

0207

1-1765 |

0208

目次

(1)	佛國海底電線厦門陸揚計畫件	自大正三年四月
(2)	此提「マタラ」間海底電線敷設關之蘭佛支涉件	自大正三年八月
(3)	大北電信會社於「鼓浪嶼」厦門間海底電線敷設件	自大正三年九月
(4)	英國上海間海底電線敷設計畫件	自大正二年三月
(5)	日本國領西部亞利加間獨立海底電線開通件	自大正二年三月
外務省		
(6)	暹羅「スミラ」間海底電線敷設關之佛支涉件	自大正三年六月
(7)	米國於「フロリダ」州及英領西印度間海底電線敷設件	自大正九年八月
(8)	米國海底電線新設計劃件	自大正十年四月
(9)	汕頭海底電信局設置關之件	自大正十年六月
(10)	勞農政府於「露國」下轄日本及支那間海底電線經營之「大北」電信會社許可件	自大正十年八月
(11)	「マニラ」間海底電線臨時任用關之件	自大正十年五月

3
6
11

三四五六七八
九

抄記簿
112, 2, 1, 7

外務省
 合之ノ下
 一ノ

(23)	(22)	(21)	(20)	(19)	(18)	(17)	(16)	(15)	(14)	(13)	(12)
									墨國ニ於ケル海外電信業ニ関スル件	海底電線敷設ニ他ノ國ニ該業(米國)	米伊連絡海底電線敷設ニ関スル件
自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正 年 月	自大正十二年六月	自大正十二年二月	自大正十二年七月

外務省

1-1765



1-1765

0211

電譯

明治三十四年四月廿九日 廈門發

四月四日 平泉少佐

軍令部長宛

四月二日午前十時佛國運送船隻突然廈門ニ入港セリ右ノ當港碇泊中、佛國軍艦ト屢々交通ヲナシ昨日午後ヨリ今朝ニ至ル迄当地大北電信局ノ附近ニ在リ、海底電纜ノ端ヲ引揚タルヤ、形跡アリ外國人ノ風説ニ依リ佛國ノ秋度厦門ヨリ柴棍ニ海底電纜ヲ布設セントノ計畫ヲ企ツアルモノ如ク右ノ次第ニ付実況探偵中ナリ

軍令部第三局

小池

廈門

四月四日 廈門發

四月四日 上野領事 手原少佐

土井陸軍大尉

大ノ廈門報外ハ大ニ冬謀急長ニ轉送アリ

四月二日午前十時佛國運送船隻突然厦門ニ入港セリ右ノ當港碇泊中、佛國軍艦ト屢々交通ヲナシ昨日午後ヨリ今朝ニ至ル迄当地大北電信局ノ附近ニ在リテ海底電纜ノ端ヲ引揚タルヤ、形跡アリ外國人ノ風説ニ依リ佛國ノ秋度厦門ヨリ柴棍ニ海底電纜ヲ布設セントノ計畫ヲ企ツアルモノ如ク右ノ次第ニ付実況探偵中ナリ

海軍

陸軍部
 陸軍省
 陸軍部
 陸軍省
 陸軍部
 陸軍省

Amoy 64 01 8 30 A
 Rec'd " " " 1-30 P

Kato
 Tokio

6. In reference to my telegram of 四月五日 through 海軍省 regarding French submarine telegraph, Commission of Customs has confidentially informed me that a part of submarine cable was very secretly landed on the night of 四月三日 in the premises of the Great Northern Tel. Company at

電受第
 五
 一
 號
 684

浪 嶼 The secrecy was so well kept on the part of French man of war that no foreigner has been known this fact until the morning of 四月四日.

It is reported that there must be some arrangement between French ^{Government} and Great Northern Telegraph Company.

French man-of-war "Descartes" and Russian Man of war "Rasboynick" are now at Amoy.

Details will follow.

Uyeno.

電受第
 號

大臣高野

總務課

正務局

阿部 池田

電受第 五 六 九 號 364

Smoy 6-4-01 9-10p.
Reed " " " " 11-56"

Kato,

Tokio,

I am informed by a reliable authority that the manager of Great Northern Telegraph Company at Smoy has received instructions from his Shanghai office to protest against French landing of submarine ~~warfare~~^{cable} in the premises of the Telegraph Company but British Consul told me that he believes this as a matter of formality on the part of that company.

ryeno

1-1765

0214

去
 後任樞密院議長
 陸軍大臣 陸軍少將 陸軍少將
 内務大臣 内務大臣
 甲子年
 大臣 閣下
 總務局長
 支務局
 小池
 阿部

Shanghai, 7-4-1901 1-25 pm
 Received, 4-4-4 5-30 "
 Kato
 Tokio
 70. Interviewed 陸 re
 the landing of French cable
 at 厦門. He says that a year
 ago French Minister to China ad-
 dressed verbal note to 總理衙
 門 on the subject, who requested
 him to see 陸 then at 北京.
 He came to see 陸, who informed
 him that formal reply would be
 given after consultation with the
 Great Northern Telegraph Company.
 陸 left 北京 before arriving at
 definitive arrangement with him, and
 總理衙門 have ignored the pro-
 posal since. The news from 厦門
 has given him no little surprise,

電受第
 五
 七
 二
 號
 115-2

油軍
 為
 連
 行
 為

and all possible steps were
 taken to prevent the French
 but in vain. I informed 陸, as
 my private opinion, that Japan
 has equal rights with
 France, and the Imperial
 Gov't may come to decision
 to lay cable between 厦門
 and a point in Formosa.
 I beg to suggest that if
 the Imperial Gov't
 considers it advisable to
 lay cable between these
 places, steps be taken
 at once at least before
 the conclusion of peace
 conference at 北京.
 Jordan
 Odagiri.

電受第
 號

電信歌文

上海癸卯四月七日一三五
東京着

加藤外務大臣

在上海 小田切領事

第七十號

佛國海底電線厦門陸揚、件、関し感宣懷、面談シタル、其語ハ、
據ハ壹ヶ月前清國駐劄佛國公使ハ本件、付總理衙門、口上書ヲ提
出シタル、同衙門之、當時北京滞在中ナル感宣懷、會談セラレタキ旨
ヲ告ケタル、依リ同公使ハ感氏ヲ訪ヒタリ、其際同氏ハ大北電信會社ト
協議、上正式、回答ヲ為スヘキ旨ヲ之ニ告ケ置テリ、而シテ同氏之、何等
確定ノ協商ヲ遂ケサル前北京ヲ去レリ、其後總理衙門ハ該提議ヲ無
視シタリ、本件、関スル厦門ヨリノ報知、接スルヤ感氏ハ大驚キ、百方之

ヲ防止スル、措置ヲ取リタレトモ、何レモ功ヲ奏セザリシト云フ、依テ本官ハ私
見トシテ感氏ニ告ケルニ日本國モ亦佛國ト同等ノ權利ヲ有スルニ依リ、帝
國政府ニ於テ厦門ト臺灣間ニ海底電線ヲ沈設ヲ決定スルニ至ルニテア
ルヘキ旨ヲ以テセリ

本官ハ若シ帝國政府ニ於テ右兩地間ニ海底電線ヲ沈設スルヲ得策ト
セハ即時ニ若クハ少クトモ北京平和談判ノ終結前ニ其措置ニ出テラレシ
トテ敢テ建言ス



電報

廿四年四月七日午後七時五分廈門發
在廈門 平原中佐

軍令部長宛

電報船六日午後九時ヨリ佛國軍艦ニ横付ラセテ荷
物ヲ積込ニ午後十一時出港小艇汽船ヲ灣外迄
追尾セシモ霧深ク行衛知ズ六日午後一時入港ノ
佛國運送船ヨリ午後四時佛國軍艦ニ手教
ノ樽ヲ積載セリ

軍令部長第三局

1-1765



秘

阿部 小池

電澤

三吉年四月廿六日 時五十分

厦門 貴

東京海軍省

軍令部長宛

一 海底電纜(三基明)大北電信局より揚子江

実タリ

二 此実行は税関長英國領事米國領事

其他外國人ハ四月四日午前迄知ラズ

ニ驚キ居ルハ也

三 併國運送船より電纜ヲ引揚ケル作業ハ

(三基明)ニテ迅速リク夜中ニ準備セシメ

四 海底電纜ハ厦門附近ニヤハ島ニ接續ス

ノ風説アリ

五 此併國運送船ハ「オホリ」号ニ噸數千七百

ト七噸元素電纜布設船トナリ四月五日ハ港ヨリ

出港シ前々時再ヒ入港ス同船ハ橋本電纜

ヲ積合セリ

六 電信局員十柱ハ二名ト十四日前来シ

六一名アリ電信技士

原内海軍省

1-1765

0219

大臣

外務省

東京

電信

阿部 小池

Sadu, 8-4-01 4-0 P.
Rec'd, 9-... 1-0 A

Yato,
Norio.

97. 行廈門領事 having reported the landing of trench cable at 廈門, I saw 廈親王 and inquired whether the necessary concession had been granted by China. He said that he was not aware of such concession having been granted, and that, as he had received no information regarding the action of the trench, he would telegraph to 成官様 to report full particular.

Kameda.

電第
五
八
二
號

47

印

傳付了

1-1765

0220

洋書
和
13

明治三十四年四月十三日
同 年 月 日
日 起 草
日 發 遣

明治卅四年四月十三日發送

主任

機密

小生

小池

機密送第 3

外務大臣

在吉小村公使

機密送第 二四

外務省

機密送第 8

逓信大臣

廣門上野使

機密送第 一四

逓信省

機密送第 9

海軍大臣

尾博太郎

機密送第 一

海軍省

機密送第 1

陸軍大臣

軍人

機密送第 9

陸軍省

佛子法王廈門海軍電信局傳令

院佛王設計超意軍本國ト佛使文趾

外務省

支那ト通信上ノ聯絡ヲ圖ニ在リテ其他別ニ何

等ノ意志ヲモ方セザルニシテ早ク帝國設計

況況ニ早クモ設計アリノ列合ニ橋ニ超ニ如月

昔在支那佛王代理公使東省ニ直橋モ在

ニ流法ニ未キ有リ

支那通信

現今ニ於テ佛使文趾支那ト佛本國トノ通信ニ

英國海軍電信ニ外ナリ有キ

1-1765

0221

合三年より設け佛國に於て先年以來別海越
 電海流設せしむる希沙望し有し高知の文趾
 支那に起り甚ほ修し往ても崎のりし海塩
 則ち其の海流の設せしむる計畫を三希
 國政府と交接せしむるに帝國と大北電信會
 社と特約の材觸を交へて設けし許諾し難
 き者同答に據り止りし今四期に計畫し文
 趾支那に起上りし廈門の在旅順口若くは浦
 塩則ち其の海流の設せしむるに
 ナリ而して海流の佛に改付在鹽把其をまきし
 文趾支那廈門の事未だ今も設けし
 其の海流の確せしむるに廈門の東に旅
 順口の海流の浦塩則ち其の海流の
 二海流の中世に抑揚せしむるに
 夕決に其の廈門の海流の全海流の
 昨計に其の海流の中世に抑揚せしむるに

外務省



ナリ 爾等ニ 本軍 出陣ノ 旨ニ 告出シ 仰ルル 事ナリ
早 改付ニ 於テ 全根ノ 嫌疑ヲ 起サシムルコトヲ

希 望スルコト

（本軍 系考 係画 扱）
石中 准 監

外 務 省

1-1765

0223

大臣 高

總務

印

池田

電受第 六一三號

514.

原

Amoy 14-4-01. 3-50p.

Rec'd. " " " " 7-50 " "

Kato.

Sokio.

8. Regarding French submarine cable, 廈防分府 confidentially informed me 四月十四日 that 閩浙總督 has telegraphed local authorities here stating that French Government contemplates to lay submarine telegraph from Saigon to Amoy and instructed local authorities to give necessary protection of the cable. 廈防分府 say that 閩浙總督 was probably notified by French consul at 福州 about the matter.

ayeno

右ノ件ハ海防隊

1-1765

0224

...

電報

軍令部宛

四月十四日午後七時
小池
阿部
山本
平原少佐

左

福州總督より廈門地方官に命じ此度
新設の佛國海底電線に關係を保持
すべしとの指示あり

軍令部第三編

...

1-1765

0225

明治三十四年四月十七日接

主官 政務局 山江

機密 第四九號

大正 書

機密 第八六九號

今四厦門の傳ふ所應電信線敷設年
 件の付るに既及電東多し用す少長去
 るに盛宣懷ト會談し際盛ノ語ル所
 據に昨年日使北系ノ洋在中法
 駐劄刺御玉台使ハ厦門ノ西應電
 信敷設ノ年一其ノ口上を干預理衙
 門ニ提出せり日衙門ハ盛ト會談
 之ヲ日使ニ求メタルに依り日使
 ハ盛ト會見し其節盛ハ年一付
 大東、大北兩電信社ト協議、
 東沙分ノ回若ヲ為スキ旨ヲ告ケ其
 年一決定セリ中ノ議地ノ歸レリ
 在 上海日本總領事館

即ち日使臨行衙門ハ其後五考ノ回若
 ヲ日使ニ提出スルに意延今日之已
 リハ次大ナリ厦門ノ旅今回ノ着
 アルヤ大北電信社ハ盛ノ估款ニ
 申リ直々ニ傳玉台使ニ對シ盛ハ
 應電電信線ヲ在厦門大北電信社
 外ハ上ヶ在應電信社ヲシテ其事務
 ヲ取扱ハシムルにテ照會シタレトモ
 日官ハ之ヲ承諾ス久又在福沙傳
 玉台使ハ福沙總督ニ向テ今回
 厦門ノ傳玉台使應電電信線ヲ
 拂スルに依り万本不却存ナキ標
 取斗ハシタキ旨照會セシ由有之矣

13



估予少良の一箇ノ意見トシテ日本ニ傳
 子ト以線ノ権利ヲ有スルニテ台
 湾ト廈門トノ交通頻繁ナルヲ以テ
 幸ニ吾政府ニ於テモ或ハ台湾ノ一
 港ト廈門トノ官ニ回線ノ計畫ヲお
 スルニヤモ知レズト聲明致意ス
 善シ奉ニ吾政府ニ於テ日ノ官ニ
 由ニ度電信線ノ敷設ヲ申案トス
 ル由意見ニ有テ是ノ目下最モ適
 當ノ時機ナルハク少クモ北京海軍
 談判路局前ニ着キスルヲ得策
 ト思存シ以テ如所申交
 敬具

在上海日本總領事館

明治三十四年四月二十日

五上出

石原謙氏宛に南切萬壽之助



外務大臣如所申交

六

高

郵

其助
轉報

號 899 第 文 密

明治卅四年四月二十日發受 警政務局

山 池

機密第 拾 號

佛國カ厦門西貢河ハ海陸電線
布設計畫ノ件

當該ノ西貢ニ至ル海陸電線布設
計畫ノ付昨今佛國可憐デカ
ト号及運送船デオリバー号一實ハ電線
布設船ナリト云フニ於テ種々ノ運送船
ニツアルノ付テ既ニ數回ノ電報ヲ以テ
報告洵シキル以テ有之ハ元來此
ノ件ニ付テハ當地各國領事館
ノ喫シキ儀ニテ其端ノ者ハ發生シ
ハ存月一日拂曉突如右電線布設
船デオリバー号入港シ即當地稅
關ハ普通ノ運送船ニ撥シテ右佛國
デカード号ニ種信取リテ齎ス為ニ乘船
セリトノ通事シテ改シタリテ一般ノ事
ニ信ヲ取テ起テ三ノ午後三時デカ
右運送船ハ行等カノ高ク下シタ
形迹アリタモ別無事間ニ發表
トテ之レナキニ依リ右國領事
長シテ惹起カガリシ其意ニ於テ
右運送船ハ海田ニ入ルナク對面
ニ浮標ヲ設下シ夫レノ電線一
會社ノ構内ニ延上テ其事實
日拂曉、於テ右及ニ依リ右國領
始テ其之レ見ルノ時

在清厦門某帝國領事館

13

1-1765

0228


有之ハ此件ノ付テハ、影効ヲ得船ニ於テ
 非モ先ニ秘密ノ中ニ、計畫セシムル事ニ在リ
 度ノ以テ、進行セシムル事ニ在リ、右電信會社
 接内ト直接セシ、隣家ノ祝儀長シムル
 氏ス、其眼ノ下ニ、暇下シ、所ノ電信會
 社ノ接内ニ於テハ、有様ニ付テ、四ノ報ニテ、何
 等ノ形迹ヲ覺知セザル、程ニ有之、何付存カ
 日祝儀長シ、訪問ノ際、同カノ談話ヲ、扱ハ
 昨今、佛國軍艦、デカールト号ノ、艦長ト云
 ニ、見テ、電信會社、設船ノ機、秘シキ、勅ルト云
 ニ、殊ニ、目下、碇泊ノ、露國軍艦、ラスボニツク
 号ト、佛艦ト、交通、郵船、タル、事、多ク、察
 ス、ハ、今、回、電線、架設ノ、件、ニ、為、一、様、
 丁、二、可、各、之、ト、珍、行、キ、云、ハ、暗、ニ、今、な、シ、テ、
 存、件、ヲ、救、カ、政府、ニ、連絡、ス、ル、キ、ト、默、示、シ、タ、ル、モ、
 、好、ク、回、カ、ノ、心、中、ニ、不、快、ノ、感、シ、存、有、様、
 量、ニ、為、存、件、ヲ、付、存、カ、ル、事、米、領、事、其、
 他、當、後、友、友、ヲ、訪問、シ、質、ス、所、アリ、タ、ル、事、
 飲、事、ノ、流、ニ、據、レ、バ、露、電、線、ハ、香、港、
 強、ク、直、接、ニ、厦、門、西、貢、間、ニ、布、設、セ、ラ、ル、事、
 一、ノ、事、實、ニ、認、メ、居、リ、者、有、之、又、米、領、事、
 ノ、談、話、ニ、事、實、ノ、如、ク、東、支、斷、定、ス、ル、能、
 ハ、カ、ン、事、實、面、ニ、於、テ、存、件、付、存、目、下、探、偵、中、由、
 亦、復、存、件、ノ、實、ニ、テ、存、件、ト、佛、國、ト、交、換、ス、ル、
 ト、カ、實、テ、者、存、件、ト、立、上、京、ノ、米、國、公、使、ト、接、
 報、シ、テ、意、見、ヲ、徹、ス、ル、事、アリ、ト、リ、ト、モ、桐、張、サ、

在清廈門某帝國領事館

レカハ又當地土那及更、更、何等ノ真
相ヲ知ルル所ナリ、殊ニ提時ニ、直接
ノ關係ト之レハ甚ク、所存及ヒ、且、日提
督モ、日提督ノ格、亦、承、知、レ、所存、越、在
其、レ、ハ、存、件、付、キ、大、山、電、信、會、社、支
取、人、ノ、說、據、ト、多、回、佛、國、ノ、電、信、會、社、支
取、人、ト、出、テ、來、リ、所、存、之、點、佛、國、ノ、抗
議、シ、テ、入、ル、事、ナ、リ、且、上、海、大、山、電、信、會
社、長、ヨリ、列、強、ヨリ、レ、ト、言、フ、漢、ノ、所、存、之、點、
カ、ラ、本、會、カ、業、領、事、ヲ、訪、問、シ、所、存、之、點、抗、議、
ノ、一、方、漢、及、ス、ル、外、ナ、リ、且、日、領、事、ノ、說、ハ、
右、一、片、ノ、儀、式、的、勅、作、ト、過、キ、不、レ、テ、怕
ク、ハ、該、支、取、人、ヨリ、お、人、ト、對、テ、申、出、ス、ル、的、
在清國門外某帝國領事館

モノナンバクトリ、又一般、外人、想
像、ハ、存、件、ハ、前、以、テ、密、カ、ク、佛、國、ト、大、山、電
信、會、社、ト、間、ノ、密、約、ハ、密、居、居、ス、ル、
相、違、イ、カ、ラ、レ、ト、ノ、一、方、之、極、百、方、探、知、
遂、ケ、タ、ル、所、ト、ニ、因、向、前、西、貢、ノ、病、者、
保護、シ、各、ト、レ、テ、審、判、シ、テ、支、取、人、
寓、居、之、所、任、居、ス、ル、佛、國、人、モ、有、之、今、日
ニ、於、テ、ハ、該、佛、國、人、ノ、威、信、由、於、海、上、
ノ、福、運、ニ、亦、見、ル、所、前、頭、密、約、存、在、ノ、事、
實、ヲ、シ、テ、お、存、シ、テ、又、日、下、ノ、所、存、之、點、
亦、在、海、上、電、信、會、社、ノ、方、ハ、前、頭、密、
約、此、ノ、西、貢、ノ、大、山、電、信、會、社、支、取、
人、ト、對、テ、申、出、ス、ル、的、ハ、ホ、ウ、ク

スッ厦門口外凡二十海哩ノ外ニ東橋
鶴(キヤールペルアイランド)附近ニ置キ西貢ト
聯結シテ計畫ニ由テ目下該雷線
布設船デオリバーノ号ニ該地附近
港ノ向ニ斷ズル波居
者事件ニ就テ多波洋行多遂テ時
始出テ波居ノ事ニ放テ追テ事
甚ク及自波居ノ事
明治三十年甲申ノ事

五海門
領事 上野專


物務大臣加藤高明殿

在清厦門日本帝國領事館

此等事々、越々五ノ東京少村金控公使
ハ直符拾拾者波居也



浄書校正
原紙
浄紙

三四四三 接受第 6 號

別紙

明治廿四年 四月廿二日起草
同 八年 八月廿七日發遣

明治廿四年四月廿四日發遣

主任

政務局長 閣下

池

機密

機密送第一二六號

陸軍大臣

外務大臣

機密送第九七

海軍大臣

二七 金保總長

宛各通

九八 中野台台長

外務省

機密送第一二

通信大臣

佛西力屋門西交同、海産電報、敷設也
ト先付、國シ、好、好、通、在、屋門、上、部、領
事、了、報、告、方、之、百、十、五、日、迄、送、付、也
也

（此、成、立、屋門、領、事、其、中、百、十、五、日、迄、送、付、也）

1-1765

0232

七臣閣了

日友
丁巳卯初
通江右
後海光
本却軍
部

號 3/2/第 受 密

機密第十一號

警務局 山七 (十地)

佛國カ廈門西貢間ニ海底電線
 施設計畫ニ関スル續報
 當港西貢間、佛國カ海底電線
 施設計畫ニ關シテ、昨月七日
 概算第十號ニ送及、技術者等
 其江以十四日、第ハ、電柱ノ
 柱名波多、道當港、海防、分府カ
 存在、方河ノ際、存付、漢ノ、浙
 征、捕、當港、地方、向、上、海、學、十
 ハ、電柱、佛國、海底電線、相
 當、保護、與、之、命、令、之、各
 密、法、改、修、儀、已、之、業、對、ノ、存

又昨亦一日、存友カ、存知、線、道、台、面
 會、前、前、佛、國、海、底、電、線、ノ、保
 護、ス、ル、事、業、ノ、一、部、ヲ、佛、國、領、事、
 官、カ、於、テ、海、防、艦、隊、ノ、中、カ、佛、艦、
 カ、上、海、艦、隊、長、下、日、伴、地、ノ、提
 督、及、道、台、ノ、方、向、ニ、令、回、報、設、
 海、防、艦、隊、ノ、保、護、照、料、ヲ、行、フ、
 在、當、天、台、カ、述、レ、ル、由、カ、お、ハ、何
 等、ノ、事、業、ノ、出、立、地、方、カ、一、片、ノ、防
 衛、ノ、事、業、ニ、關、シ、テ、其、理、十、九、ノ、朝、報、
 報、知、ノ、由

在清廈門日本帝國領事館

ノル

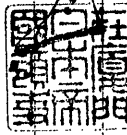
ケ歸任候ハ又徐道台ノ談話ニ據
バ右ノ海軍電報線ハ廣東ノ廣州
シ種テ西貢ニ達スル積チリトノクローデル
直達スル旨ノ旨又目下ノ海軍
如ク當院ノ佛國海軍事務所
元ハ為テ鼓浪嶼ノ西端ニ於テ
電行ノ候神ト稱スル候事
ト右ノ旨ハ英國人所有ノ海岸
区ヲ海軍ノ管轄スル日下相法
又佛國ハ是レ當院ニハテヤデン
高云ノ職任ハ此ノ旨ニ依テ
シテ事務所ノ事務ヲ行ハス
強別館ノ候事ニ依テ行ハス

在清廈門日本帝國領事館

有之ハ其ノ旨ニ依テ今更ニ情
況ヲ抽録シテ右ノ旨ニ依テ行ハス

在厦門

領事上野專



秘書大臣加藤高明

國子存文ノ旨ニ依テ右ノ旨ニ依テ行ハス



三四五。一接受第96箱

別紙

明治廿四年五月十三日 起草

明治廿四年五月十三日 發送

主付

政務局長 小尾

機密

機密送第16

陸軍大臣

外務大臣

機密送第37

陸軍大臣

機密送第12

陸軍大臣

宛書通

機密送第38

陸軍大臣

外務省

機密送第13

陸軍大臣

宛書通

佛書厦門西直河海陸軍校の敷設

見附は筆箱の國にお城を直に在厦門

上野館事より彼先の方より方長い山内

四台書也

(一) 佛書厦門西直河海陸軍校の敷設

手
局
印

413/

機密第十二號

警務局 七七

苗漢之於凡佛國海底電信起

點密第十號中ノ道ニ至ル

起兵大ニ電線會社并其海

底ニ於テ電線布設ノ旨及核

密第十號中ノ道ニ至ル

四新設ノ計畫中ノ回國ノ海電

線ノ可任無ク對廈門港地圖中

點浪粵地圖ノ於テ示出ル即

千前者大北電信會社海電

ニ朱園及之ヲ接續スル事

在廈門 領事 上野 寄

在清廈門米帝國領事館

港仔後ノ南面砂岸ニ於テ朱園

ト申事知ル事此地圖ノ於テ

追々岸方ノ領事地圖ニ在ル事

村分仕ノ事ニ付テモ

福又岸港ニ先發來佛國軍艦

テカ一上野艦不從泊陸居於

同艦ニ既ニ福州ノ向テ出帆ニ目下

書 13

1-1765

0236

回國出洋船アリアン(Anian)号
在泊所居片おある旨。好む

在清廈門日本帝國領事館

1-1765

0230

港通圖

AMOY

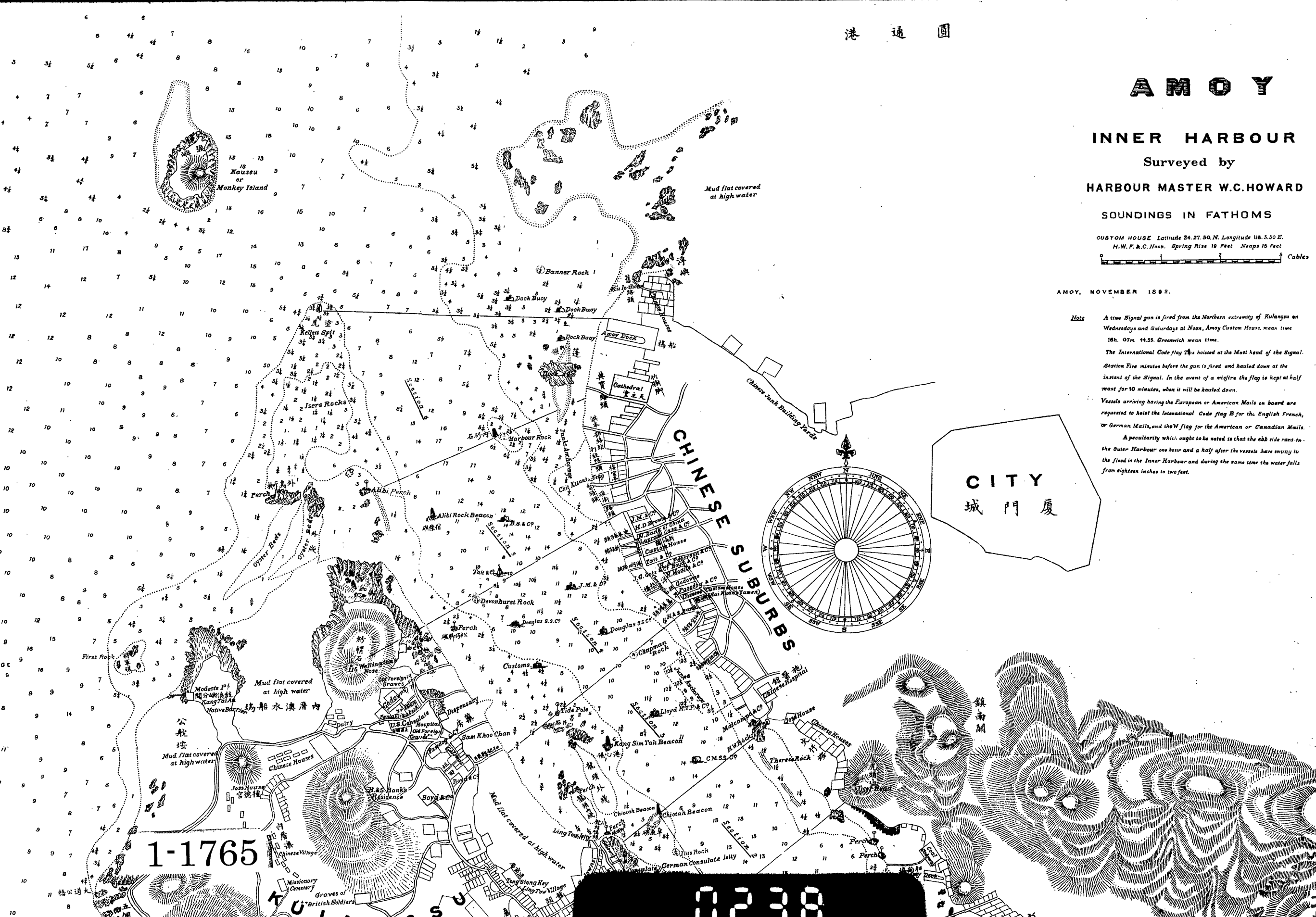
INNER HARBOUR
Surveyed by
HARBOUR MASTER W.C. HOWARD
SOUNDINGS IN FATHOMS

CUSTOM HOUSE Latitude 24.27.30. N. Longitude 118.3.50. E.
H.W.F.A.C. Noon. Spring Rise 19 Feet Neaps 15 Feet



AMOY, NOVEMBER 1892.

Note
A time Signal gun is fired from the Northern extremity of Kulangsu on Wednesdays and Saturdays at Noon, Amoy Custom House, mean time 10h. 07m. 44.55. Greenwich mean time.
The International Code flag *T* is hoisted at the Mast head of the Signal Station Five minutes before the gun is fired and hauled down at the instant of the Signal. In the event of a misfire the flag is kept at half mast for 10 minutes, when it will be hauled down.
Vessels arriving having the European or American Mails on board are requested to hoist the International Code flag *B* for the English, French, or German Mails, and the *W* flag for the American or Canadian Mails.
A peculiarity which ought to be noted is that the ebb tide runs in the Outer Harbour one hour and a half after the vessels have swung to the flood in the Inner Harbour and during the same time the water falls from eighteen inches to two feet.

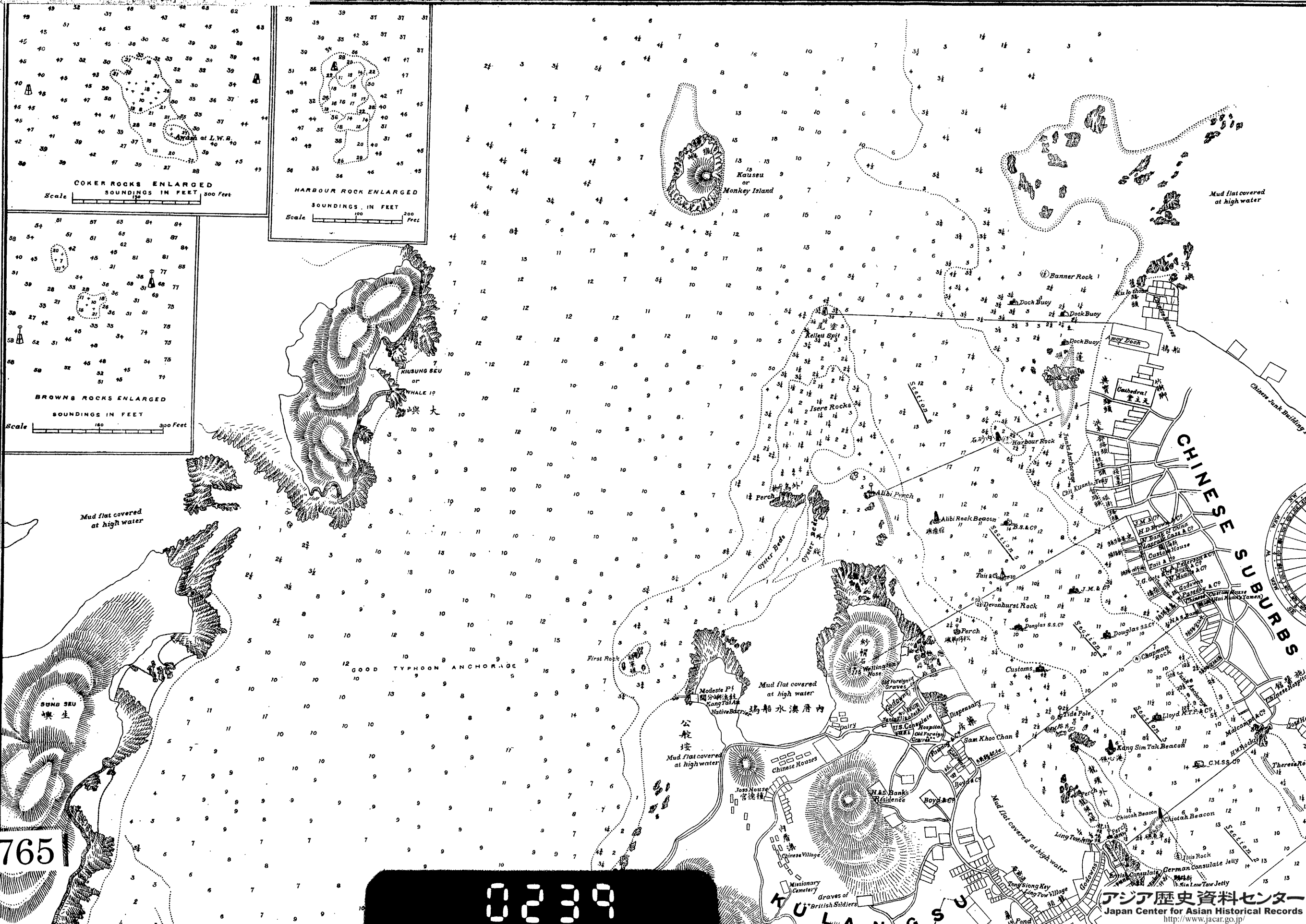
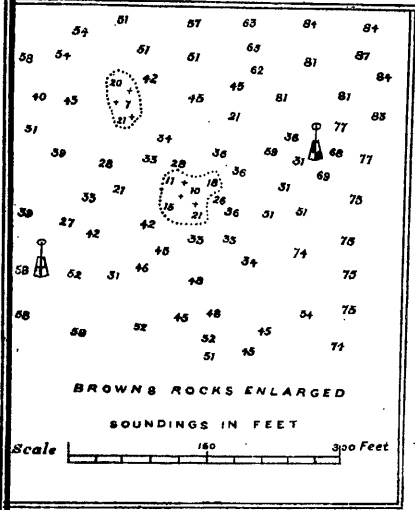
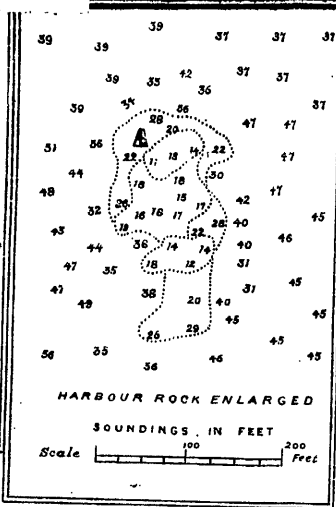
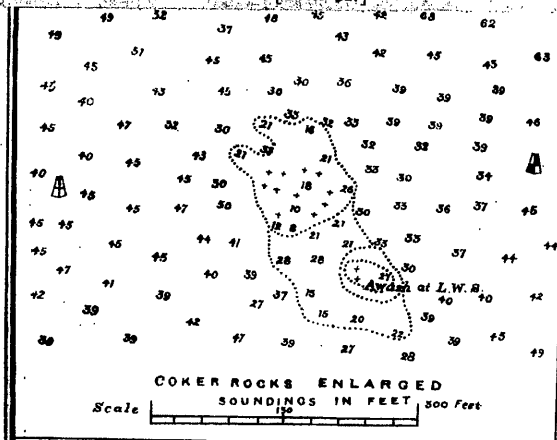


1-1765

KULANGSU

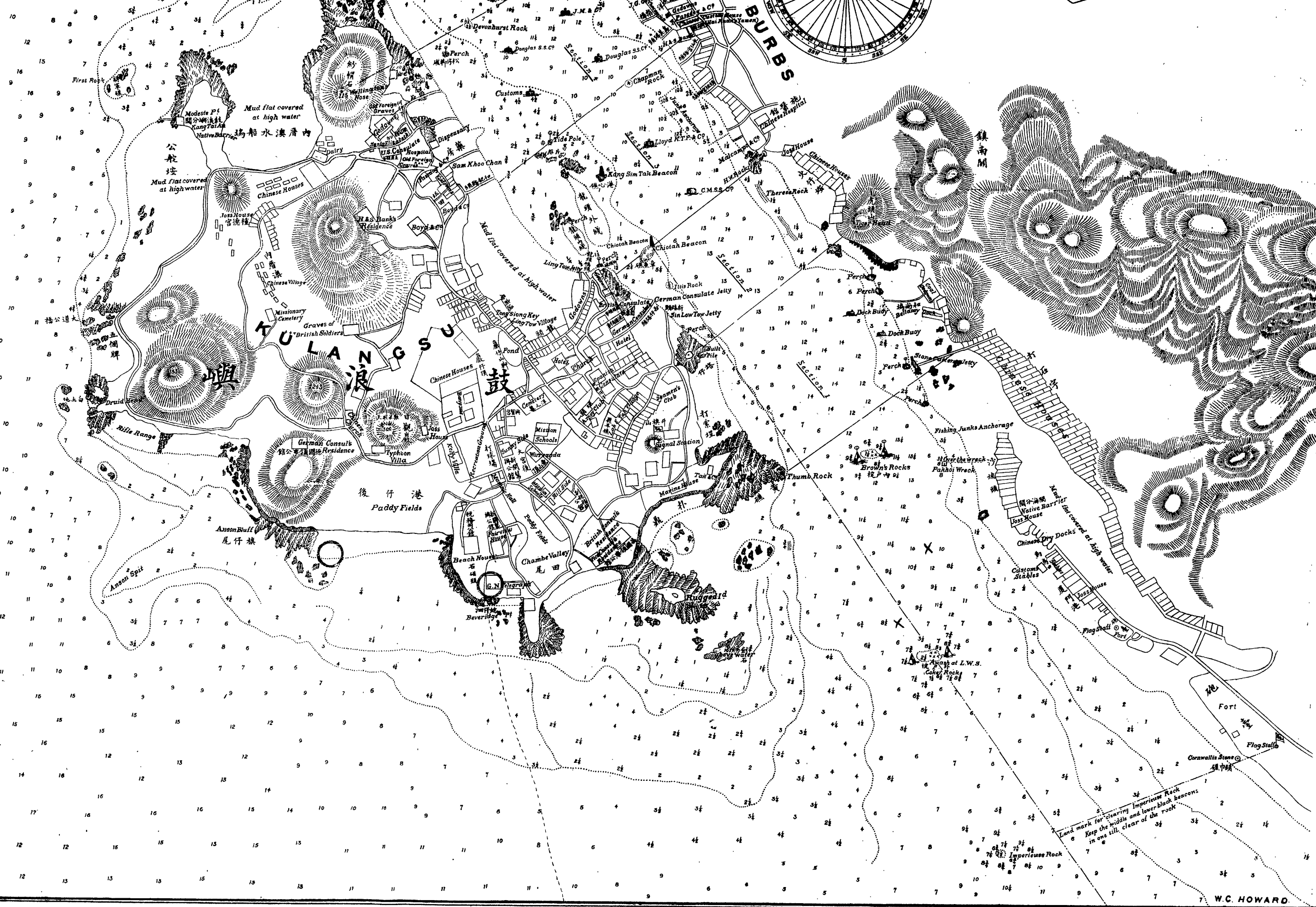
0218

CHINA: IMPERIAL MARITIME CUSTOMS.
III - MISCELLANEOUS SERIES: No. 21.
CHART OF AMOY INNER HARBOUR.
[Price \$1.]



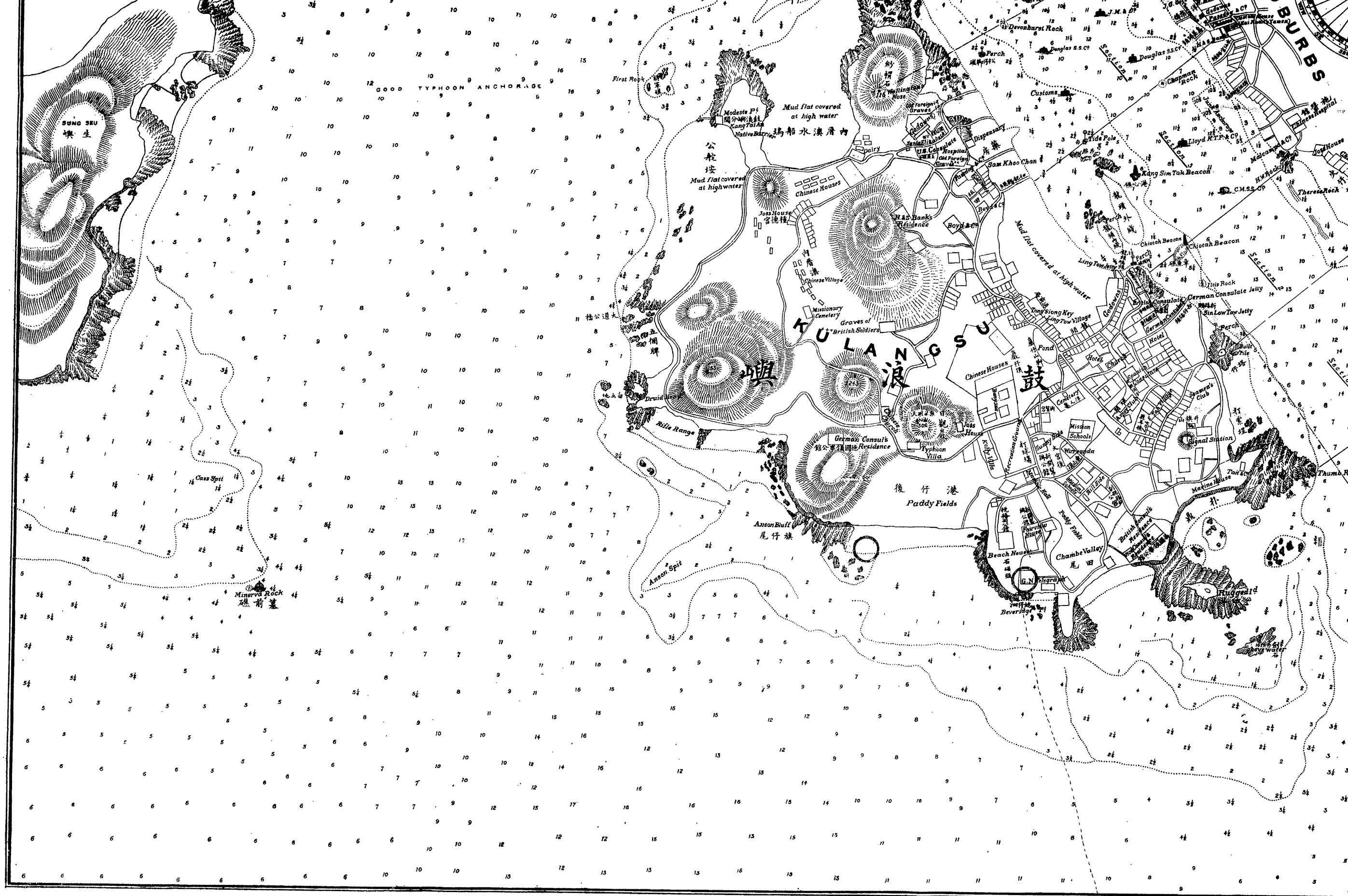
1-1765

0239



1-1765





1-1765

0241

五月廿二日 警務局 山本

機密第十五號

上
上
陸海軍
第951號受密

佛國が西貢廈門間ニ海底電線沈設ノ件
ニ付テハ去四月二十三日付機密ヲ十二号信ヲ
以テ報告致置キ後事業ハ着々進行シツ、
アルモノ、如シ昨日午前尚又曰國ケリブル船
Francisco Diego 号入港沈設ノ準備中ニ
有之又昨日香港ヨリ入港、英國汽船
海龍号ヲ以テ佛國人 Sibred ナルモノ夫妻
及、眷族来着致キ處右ハ当港ニ於ケル
電信事務所長トナルベキ人ヲラント、説ニ有
之ル尚ホ目下本港ニ停泊、佛國軍艦ハ
巡洋艦フリアン号ヲ隻ニ有之ル
右目今、情況為由余考茲、及報告ス

在清領事館領事館

敬具

明治三十四年五月十一日

在廈門

領事上野專



外務大臣加藤高明殿

洋書校正
原稿
真子

三四五三接受第
42
號

明治廿五年五月廿九日
同 月廿九日 領遺

明治廿四年五月二十九日發送

主 付

機密

機密送第155

陸軍大臣

外務大臣

機密送第156

海軍大臣

余謀局長

宛各通

機密送第157

海軍少佐

機密送第158

海軍大臣

外務

廈門西貢間之於元佛各海客電信敷設

計畫、件々其後事業未了者之進行也云々

如、本月十日午前、又佛各一先船

Francis Bugey 号 廈門入港、電報設備

準備中、方之取、其日、香港入港、先

著名漁船海龍号、之、佛各人、Shelley 氏云

（只、家務ヲ、備へ、同、港、三、本、以、前、等、以、説、云、云、ハ）
本、中、春、鞋、来、本、春、号、廈、門、人、厦、門、北

之レ傳子電代事務所長トテノキ人ナリトノル
并ニ
説カル方ニ在座所トテノル被テ
東ニ有方ノ市報館トテノル又目下由是レ
自レノ事

之レ角兵軍艦ハ洋艦トシテ号ヲモトメテ
本月上旬附シテ在座所トテノル報出
附カル方ニ在座所トテノル被テ
有方ノ市報館トテノル又目下由是レ

外務省

1-1765

0244

香 丸 収

海陸無線
電報

機密 第616/第2號

二十四年六月二十日接受

機密第二十號

警務部 山

3

佛國が柴棍厦門間ニ海底電線沈設之件ニ付テ去月十一日付機密第十五號ヲ以テ報告致置候處其後ノ事情ヲ探偵致候ニ技師其他追々到着致浪山大地電信會社事務所ノ一部ヲ借受テ現ニ通信機関ヲ設備最中ニ有之候此程佛國電信事務所主任バーナード (Bernard) 氏家族同伴來着小官ヲ訪問致候ニ自該事業ノ模様相尋候

在清厦門某帝國領事館

處今後凡二週間内ニ諸般ノ設備出來通信相関キ得ラシ候見込ノ由又昨十日小官同所ニ訪問ノ序該事務所一覽致候處大地電信會社ノ事務所「總テ七室アル内其四室ヲ佛國ノ電信事務所ニ借受テ目下諸機械類ノ備付ニ着手中ニ有之候尚聞ク所ニ依シ「不月一隻ノ「ケル」形來着上「海陸」援續ノ準備全ク了可致トコトニ有之候又昨日大地電信會社支配人マニカス氏

1-1765

0245

ノ説、依シハ月下大北會社ノ構内
ニ住居致居候佛國人ハ前陳
ベリナード氏以下ハ名程、有之尚近
々ノ内電信事務ノ外本地、佛
國郵便事務ヲモ開設可致
答之由、有之候右、聞シ今後
ノ事情ハ時々報告可致候ハ
共今日迄ノ情况茲ニ及具報
置候 敬具

明治三十四年六月十日

在厦門

領事 上野專



在清厦門日本帝國領事館

外務大臣曾補荒助殿

奉旨

收

明治廿四年六月廿一日起草
同日發遣

政務局長(藤田)

主任

明治廿四年六月二十七日發遣

淨書校原

機密

桂 總理大臣

兒玉 陸軍大臣

大山 海軍大臣

26 芳川 通商大臣

外務省

大山 希謀 總長

陸軍 東軍 台 部長

佛國の紫根 厦門 海 海底電線

沈設の件、關し 別紙字通在厦

門上 郵 領事 報告 指 之 務 与 指

以 奉 少 少 右 務 之 差 甚 也

(別紙に在厦の領事報告等より第三号字)

機密送第

機密送第

通商局

總務部

Amoy, 28-6-07. 10. p.
Recd 29 " " 1.10 a.
Sone
Tokio

電報
第
九
〇
八
號

11. In reference to my
telegram 7, Amoy the
cable rates per word
provisionally as follows:
Annam 75 cents
Tonquin 95 cents
Cochin China 1 dollar
5 cents.

25w

nyeno

東京
支那
通商
局
總務
部

電報
第
九
〇
八
號

1-1765

0248

右ノ内務省及

文書課

明治二十四年七月一日

明治二十四年七月一日
同 年 七月 一日 起草
日 發 遣

主任



通商局長

通商局長 仰 貴局 向 外務省 提出 於 去年 七月 一日 迄

政務局

送

通信大臣宛

大臣

本月廿七日附機密送券二六号

ヲ以テ申述 呈 候 佛 國 へ 沈 没 船 料

根 據 内 務 省 電 報 係 用 料

外務省

八 月 廿 七 日 附 機 密 送 券 二 六 号

五 仙 子 做 集 云 本 日 確 定 云 々 上 旨

奉 内 務 省 電 報 係 用 料

了 旨 矣 上 旨 矣

了 旨 矣 上 旨 矣

明治三十四年三月十九日 起草
同日發遣

主任

通商局長

三月十九日
六十八

官報掲載案

曩、佛國政府、沈没先、厦内

築根了、海底電線、使用料

ハ、有分、之、内、在、表、係、ハ、徵集、先、下、

外務省

作定、先、方、之、取、在、厦内、帝國、版

半、ヨリ、電、報、了、了、

往厦内、到、客、南、一、語、七十五仙

到、東、東、一、語、九十五仙

到、友、趾、五、那、一、語、一、百、五、仙

七
日
報
館
印

郵
送
行
送

厦
内
郵
局

印

政務局
中佐

海商局
杉打

電務局
如日

Amoy, 28-6-01. 9-0 p.
Recd. 29-... 4-50.

電受第
九
一
〇
號

Sone.

Tokio.

10. The manager of French
Cable here has notified the
Public that the cable between
Amoy and Tonquin, Annam
and Cochin China is now
opened to Public traffic
and telegrams for these
countries are now accepted.

H/W.

印

All the messages should
be as heretofore be handed
direct to Great Northern
Telegraph Company's office
here.

Uyeno

1-1765

0251

土の厚内三たの国也書凡

文書

明治三十四年七月一日

27

海軍省

明治 34 年 7 月 1 日

閣下

池

包

送第 27 号

通代出之宛

外務大臣

在厦門佛名電代事務所主任人宛其分

同地ト東至^{トシキ}女及交趾支那万海電報

ノ公衆通^{トシキ}信之宛也^{トシキ}書記諸君ノ^{トシキ}電報ノ

外務省

交付ノ旨先示^{トシキ}而^{トシキ}其^{トシキ}電代ノ^{トシキ}信^{トシキ}來^{トシキ}

通士土電代委託ノ直接^{トシキ}ノ交^{トシキ}也^{トシキ}ト^{トシキ}旨^{トシキ}上^{トシキ}仰^{トシキ}

宛事^{トシキ}ヲ^{トシキ}電^{トシキ}報^{トシキ}者^{トシキ}之^{トシキ}旨^{トシキ}及^{トシキ}市^{トシキ}面^{トシキ}公^{トシキ}事^{トシキ}也^{トシキ}

1-1765

0252

第十四年六月十六日

警政務局

小池

要旨付了

書 13

14

公第一一七

小池

一三八三

佛國の紫根厦門間、海底電線沈没、件、
 付テ、夏近屢、報告致置テ、厦今般在本地
 佛國電信局、於テ、本月二十八日ヨリ厦門東
 京、安南、交趾支那、各處ニ、当分、間本地ヨ
 リ安南へ一諾洋銀七拾五仙東京へ九拾
 五仙交趾支那へ一拾五。五仙、料金ヲ以テ
 公衆、電信ヲ發送スル旨告示致テ、右
 等佛國、海底電線、依テ通信スルモ、總
 テ、從前、通リ、本地鼓浪嶼又北電信會社
 ニ、於テ、受付テ、代送スル等、有之テ、趣、右
 付テ、不取敢、昨二十八日電信ヲ以テ報告致
 置テ、得共尚小前述、以テ重テ申進申敬

在清厦門日本帝國領事館

貝

明治三十四年六月九日

在厦門

領事上野專



外務大臣曾称荒助殿

遺テ、本月十一日機密ヲ二十号信ヲ以テ報告セ
 ン佛國電信局支配人 O. Bernard
 Managers of French Cable 相称居
 中間左様申承知有之度為念此段申添
 申也

1-1765

0253

1-1765

0254



2



1-1765

0255

附屬書類添附

大正元年九月廿四日接受

主務政務局

第一課

公第一一七

大正元年九月十六日

在厦門

領事菊池義郎



外務大臣子爵内田康哉殿

事変、于スル件

本件之于シ別紙差進 其間御査閲相成
度此段及御報告 敬具

在清厦門日本帝國領事館

姓名
受04212號

坂田

通有

1-1765

0258

北支
陸海軍

事変ニ于スル件

- 一、大北電報公司海底電線敷設ニ于スル件
- 一、詔安ノ匪乱ニ于スル件
- 一、廈門審判廳設置ニ于スル件
- 一、興化土匪ニ于スル件

一、大北電報公司海底電線敷設ニ于スル件

九月三日當地礮字新聞南聲日報海綫
 交涉ト題シ大北電報公司ハ從前其總局ヲ鼓
 浪嶼ニ設置セルガ故ニ廈門側ニ於テ各地ニ
 電セントスルモノ廈門ニ於ケル同公司ノ代理者ヨ
 リ更ニ右總局ヲ轉送シタル上ト電スルコトナリ
 居レリ(中畧)首清時代ニ於テ同公司ハ曾テ廈門
 ニ通スル海底電線ヲ敷設セントシタルコトアリシヲ

在清厦門日本帝國領事館

以テ海權ノ所在ニ于シ力争シテ停止セシメタル
 フトアリ近日同公司ハ已ニ海底電線敷設シ
 鼓浪嶼ヨリ廈門港ノ沙浦尾ニ接續シタルハ實ニ
 不佞ニシテ現ニ外交次官林榊茶ヨリ交渉中ナ
 リ去々ノ記事登載セルニ件右事實ヲ調査シ
 タルニ八月中旬ニ於テ敷設シ已ニ廈門ノ代理
 者ニ於テ直接通電シ居レルコトヲ確メタリ而シテ
 右電線敷設ニ于シテハ南聲日報ノ報スルガ
 如ク支那官憲ニ何等交涉スル者ナシ同公司
 ニ於テ任意秘密ニ敷設シタルモノナルカ得又何
 等支那側ノ承認ヲ至タシタルヤ目下引續キ
 取調中ニ件探悉ノ止ハ更ニ及中報告ハレ
 詔安ノ匪乱ニ于スル件

昭和二十一年五月九日

本件ニ于シテハ已ニ本月九日付公第一一三号ヲ以テ及脚報告スル次第アルが本月十四日詔安ヨリ當地全圖日報社ニ達シテ消息ヨリ詔安黃牛洞ノ匪党ハ廣東省潮州府ノ匪徒トモ連合シ匪勢日ニ盛ニテ目下請洞ノ匪徒ハ合計四十余名ニ達シ同地方ト交通全ク杜絶シ居民ノ困苦甚シク本月九日維勳ノ官兵ト六爺廟地方ニ於テ接戦シ戦鬪二日ニ渉ル匪徒ノ死傷チカラナルモ官軍副統帶(副隊長)彭保漢戦死シ管帶官(大隊長)胡洋及王貞和重傷ヲ負ヒ其他隊長(中隊長)以下兵士ノ戦死者約三十名ヲ出ス此ガ爲メ軍心頗ル怯シ匪勢益張附近各地亦頗ル驚恐ヲ來セリト又詔安東札山ノ匪徒ハ益々衆トナリ

在清廈門日本帝國領事館

厦門ノ執ト猖獗ヲ極ムルモ詔安官軍ノ兵力單薄ニシテ之ガ防守ヲスルニ足ラズ人民ノ風鶴飄リニ驚キ續々避難ノ情況ニシテ地方官ヨリ福州及漳州ノ急電ヲ發シ機兵ヲ請求シ此ノリトナリ

厦門審判廳ニ設置スル件

厦門審判廳ハ昨秋勃亂ト共ニ閉鎖シ其後裁判事務ハ民政廳ニ於テ兼轄シ未レリ然ルニ本年五月ニ至リ審判廳設置ノ議起リ福州ヨリ委員來厦調査ヲ行ヒ之ガ結局財政困難ト希メ実行ノ運ニ至ラズ沙汰止トナリ然レバ近來都督府ニ於テ厦門ハ通商ノ要地ナレバ速ニ創設セザル可ラストテ又

地土証

地土証

本件再燃レ乃チ福州南台審判廳ヲ厦門ニ
移シ至其ノ所域スルコトレニ已ニ參議一駐ヲ
通留シ之由ナレハ近々実行ヲ見ルに至リ
一興化土匪ニ干スル件

興化ノ土匪ニ干スルハ八月十二日付公着九九號ヲ
以テ申進ノ次第有之其後事態紛重
大ナリト思料スルキ理由アリ之ヨリ八月廿四日又
保善太郎及山本恭茂等ノ同地ニ派シ實地
調査セシメタル然ルニ何分土地遠隔交通不便ニテ
令人等今日に至リ高未タ帰來セザルモ不日
帰原スルキ案存歸原ノ旨詳細及抑報告
ハシ

在清厦門日本帝國領事館

1-1765

0259

附屬書類添附

大正元年拾月 九日接受

主管理務局

公第一三四號

大正元年九月三十日

在厦門

領事 菊池義郎

外務大臣子爵内田康哉殿

車變二千元件

本件關於紙幣發行使向市查閱相成發
此級及報告做數是

第18門

05440號

手印
手印

在清厦門日本帝國領事館

大正元年九月三十日
在厦門領事菊池義郎

1-1765

0260

事変に關する件

一 大北電報公司海峽電線敷設に

干渉する件

一 兵船に干渉する件

一 福州に於ける人心激昂の影加音に

干渉する件

一 大北電報公司海峽電線敷設に干渉する件

各地大北電報公司の厦門鼓浪嶼英領海峽電線敷設に厦門に於ける合電報公司並に支那電報局に在鼓浪嶼大北電報公司の向八月十七日ヨリ聯絡

在清厦門日本帝國領事館

電報ノ取扱ハ次第ハ本年九月十六日付公序二七
別シテ報告ノ次第アリタル處本件に關シ各地丁抹
名譽領事リーノ語ル所ニ由リ一丁抹領事ト
シテ本件に干シ何等支那官憲ト交渉シタルナシ
上海又ハ地事に於テ現時如クハ過去ニ何等支那官
憲ト交渉アリタルヤ之レ亦タ一物兼知セズト述ハル
由リテ高者誠ニ各地會客公堂委實書友蘭
甘テ亂スル人ノ言ニ由リハ右電線敷設に付ヤリハ
福州都督府又ハ各地支那官憲に於テ何等支
滯ニ應シタルモノナラヌ又ハ現ニ交渉中ニ在ラズ而モ
右海峽電線に支那電報局ニ連絡シタル旨
見ハル前清時代に於テ同公司ト北京郵傳部
又ハ上海電政局トの間ニ何等交渉ソアリタルコト

十月十日
中興合資
面合、片取
調回、片依
野清

実行したるに非ならずト思はれ果しては其の否やハ確
知せざト推し居り、査するに當り、彼等庫にハ中国電報
局ト大北水城公司、向會訂電報、同各款ハ十
九年十年末迄有効、勿レミナ存スルニ由リ、其後ハ
有効トナレハ條款ヲ果して充備十三年、其後電報
條約十六條並ニ充備十五年、中国電報公司
大北水城公司電報
合同條款并十六條ノ如ク、會社ハ政府ノ同意ナリシ
テ、故後英ソ通商トシ、其海底電信線ヲ支那及
朝鮮ノ各地ニ延長スルカ、規定シ、其ノ否や否や
明確ナラズ、然レハ在攝、條款ノ存スルニ於テハ研究
余地アリト思考ス

一兵餉ノ平ズル件

在清廈門日本帝國領事館

兵餉ノ問題、近來各地ニ於テ漸ク再々喧嘩ヲ見ルニ
至リ、所屬州ノ兵餉ハ、庚辰七八月分ハ、倉部未納
ナリ、但シ司令官直屬部下ノ如キハ、五月分迄ハ、俸
ヲ受ケ、存スルニテ、其他六月分ハ、一部隊ニ拂込ラ
スルニ未ダ倉部ニ對シ先清ニ呈ス、最近九月廿四日
兵士一部ハ、翌日ハ中、秋節ニ相違ヒ、倉部ニ次
中軍府吳明德ニ迫リ、一部俸給ノ拂込請フ
誠ニ吳ハ、五萬元ノ借入方、道台ニ交渉シ、先月目的
ヲ達セ、布リシ、然レテ、而シテ、各地軍隊ハ、巡防隊、
義勇隊、泉州駐防隊、一切ヲ併セ、約數千、某
方ニ目下大部ハ、出陣討伐、其他ノ爲メ、汕出口、
詔安、興化、馬巷、泉州各地ニ駐屯シ、廈門在留ノ兵
員ハ、估計以テ十餘名、呂州ハ、廿餘名、元來、西、

同兵餉ノ不汲ハ各地ニ於テハ初メ異例ノ事ト
見ルベカラズ直ニ之ガ爲メ贍糧ヲ悉起スルカ
要アリト云フコト能ハサルハ既ニ本年機密第一號中ニ
申述ノ通りタル外實際ノ状況ヲ見ルニ厦門在留ノ
兵員ハ賭博ノ害錢ヲ娼妓ノ關係アル堂業ノ
對ニ諸請等ヲ以テ毎月可ナリ收メ見又々各
地派出ノ兵員ハ土匪ニ對スル危險防護、械闘彈壓
等ノ名トシ出張先々ノ村落ニ於テ強トシ公然脅嚇
要求シ敵テシ人氏側ニ於テハ右ノ要求違反ノ場合
ハ南ニ出テトシテ盜犯トシテ又單ニ東洞ノ名トシテ
自由拘束ヲ受クルニ由リ法局一定ノ責務ヲ致シテ
保護ヲ受クルニ如カストアキラムルニ由リ之又ノ可ナ
リノ收入アリ即チ刻ニ所兵士ハ必スシモ月俸ノ不

在清厦門日本帝國領事館

汲ニ由リ痛苦ヲ感セサルコト其實地ト被認故情
向福州山頭等ニ於テ贍糧ヲ見當地ハ其餘波
ヲ受クルニ至ルカ又ハ其他ノ理由ニ由リ事情ノ變化ヲ
来サレル限リ考案アリ兵餉不汲ノ事實ハ在テ
何等直接憂ケルニ足ルニヤ結果ヲ来サレルニト
思考セラルレ使(考考者ノ別表添付)

一福州ニ於ケル人心激即ノ影響言ニ干スル件

本月廿七日以來各地ノ官憲並ニ錢庄ニ宛テ頻々
電報シ来リシ意味ハ今春喧嘩が鎮閩使トシテ
兵ヲ率ヒテ福州ニ来リシ爲メ彭壽松ノ之ニ抵抗ス
ル氣配ヲ示スニ於テ再ニ兵亂アルニシ旧軍ハ殊ニ反

抗ノ氣味アリ為シ人良ハ統之始難トワ、ア、ト、意
 味ノ電報ヲ事案ニ添ヒ福州ノ家族親戚ヲ有
 する厦門在住ノ支那人ハ急遽之ヲ厦門ニ呼ビ寄セ
 居リ亦夕福州ヲ滿地ニ於テ親戚ヲ便チ通難
 シ来シハ實例アリ其真相ニ至リ、未夕福州ノ通
 報ニ接セザルヲ以テ知ルヲ得ザルモ兎ニ南左若報送
 ノ結果トシテ廿七日以來銀行業者ノ間ニ於テハ
 滿地ヲ福州ノ為替ハ記載額ニテ差科ト居ルモ
 買手ハ其之現況ニ方之尤モ龍銀相持ハ
 (七六九五)香港為替(均若)上海為替(七二一五)左陽
 為替(一〇〇四〇三)為替ハ平生ト差ナシ

在清厦門日本帝國領事館

別表

官職	名	別稱	籍貫	年齢	前情官階
司令官	曹春榮		湖南有	方十外	提督署行堂生年
中府	吳明德	錦堂	江蘇有	五十外	都司
副官	周源泉		湖南有	方十外	
又二營	黃				
又二營	趙以文			四十外	海陸兵隊勇
人四營	廣義山		安徽有		
義勇隊	熊漢清		湖南有		耳老金返回張勇
義勇隊	劉燕	炳辰	興化有	方十外	提督馬鹿
義勇隊	彭慶樓				
義勇隊	王鳳池	席珍	安徽有		在安到方後元
湖軍	劉	印生	興化有		提督巡捕
台后頭	葉心田		湖南有		司令官女婿
暨	譚英華		湖南有		前在廈門提
與仔尾	曹篤生		湖南有		
稽查員	林成美		台博人		林季滿部下
合計兵數	二二〇二	隊長一也			

内義勇隊四個營及。稽查員。廈門泉州同安人。林用也。 (備方十外有八多的人)

在清廈門日本帝國領事館

文書課長

大正元拾月八日接

浄書

大正元年十月十四日附

送第九包號

主管 郵務局長

陸第一課

大正元年拾月拾日

内田大臣

再回

逕信大臣家

大北電報公司海唇

電線敷設、付

外務省

右件之圖之別紙、(通)在廈門菊池領事、報告有之、付局、参考、及仰送附、也

(別紙、廈門事、共、四三三三、号、附、番、書、中、一、内、写、ナリ)

1-1765

0266

廈門
北平
廈門

遞信省

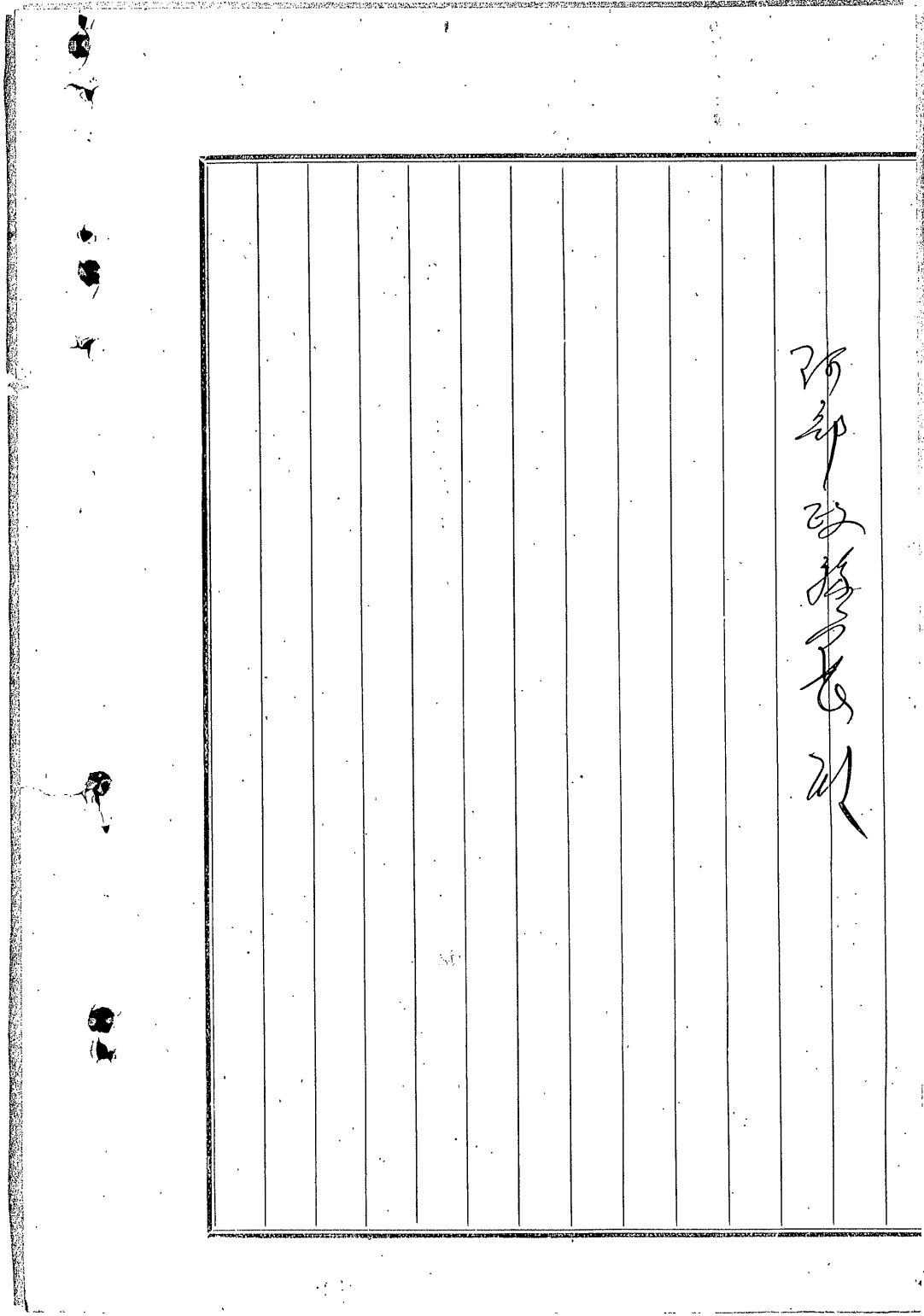
此道通到少村中紅布之山北會北廈門
海邊係延長一併之五月十日地書行所不係一
活して内地幸國物使用長多物之山北依二條門
島嶼、既存在之北會北海極係、陸地一延長之
其地由、支那政府之買地三四十方町ノ支那ノ延長ニシテ
二方町ノ支那政府之買地三四十方町ノ支那ノ延長ニシテ
所河等處、場所、取之、有種係者、取之、支那國內、
取之、自由、取之、取之、其間、取之、取之、五月十日
ト至、居、取之、取之、取之、支那、取之、取之、取之、
延長、取之、取之、取之、取之、取之、取之、取之、
取之、取之、取之、取之、取之、取之、取之、取之、
取之、取之、取之、取之、取之、取之、取之、取之、

三月十日

軍中
長

1-1765

0267



1-1765

0268

大正 元年 拾月 拾四日 接受

97

大正 元年 十月 十二 日起算
同 年 十月 十五 日 附

第一

送第二三號

主管政務局長

大正元年拾月拾五日 達濟

層内

中向在

菊池信事

大正電報公司海軍電信局

二番五件

外務省

古件ノ旨ニ九月十方付ノ年二七号第
 九月二十日付ノ年一二四号ヲ以テ
 之趣ヲ承知シ身任者、及
 取回者、格ニ申付事、此地郵便
 局長ヨリ郵政省ニ依リテ大正電
 信会社ニ付テ、
 取回ルニ付、同ノ旨ヲ傳達シテ、僅ニ
 二十下田ノ旨ヲ為スニ止ルハ不都合ナル

う以て今社は海河警備、揚子江に於て水
底線有るは、大抵支那に由り、於て自由

を設け、其の南に於て、陰曆五月より云々

ト 張シ、
今社は、
南洋、
由、
長

シ海にせん、ト 控セ、
中、
能

存、
及、
当

取、
上、
事、
情、
明、
上、
以、
新、
事、
也

成、
其、
根、
地、
也、
此、
事、
也、
也

外務省

当、
社、
行、
の、
第、
一、
七、
号、
及、
一、
二、
四、
号、
中、
の、
件

に、
関、
し、
て、
本、
社、
の、
行、
事、
に、
関、
し、
て、
在

北、
京、
に、
関、
し、
て、
本、
社、
の、
行、
事、
に、
関、
し、
て、
在

添、
り、
也



大北電報公司社務部

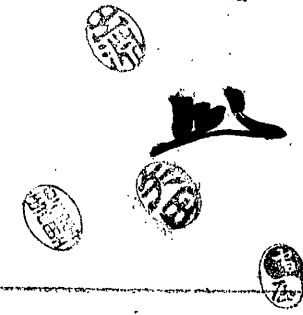
大正元年拾月拾六日接受

大正元年十月十八日附

送第一〇九號

主簿 政務局 了

第一課



大正元年拾月拾六日發

内田大臣

通信大臣宛

大北電報公司海陸

電線敷設一付

外務省

本件之圖ニル在厦門南地領事

報告ニ本月十日附送九四号ヲ以テ

及市送附事、變今般令領事

ヲ別紙ノ通文、續報有之、付

市送附事、及市送附、也

(別紙ニ厦門南地長五五四号ノ附屬
書中「」内写ナリ)

第18門

郵便

2

1-1765

0272

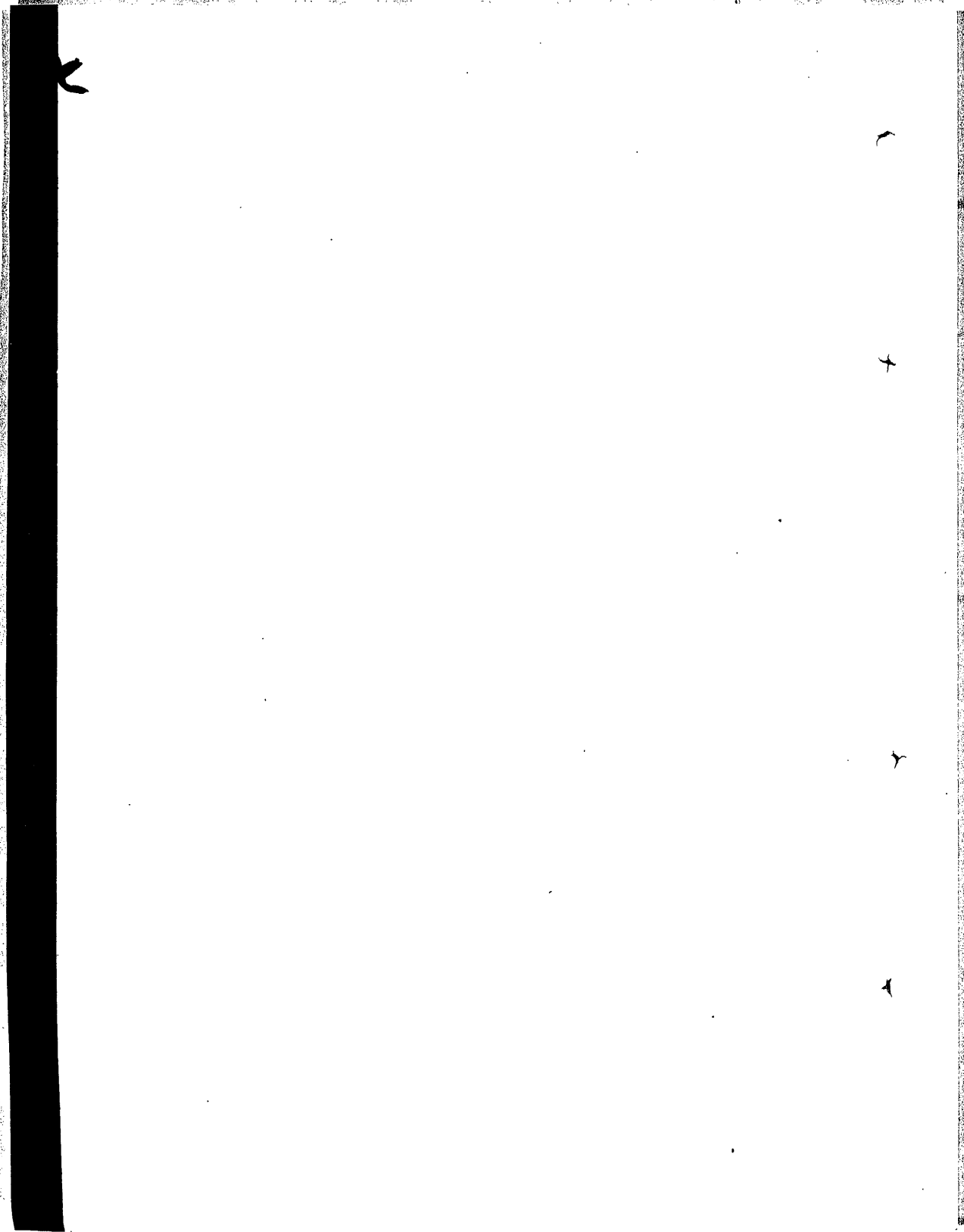
五

1-1765

0273

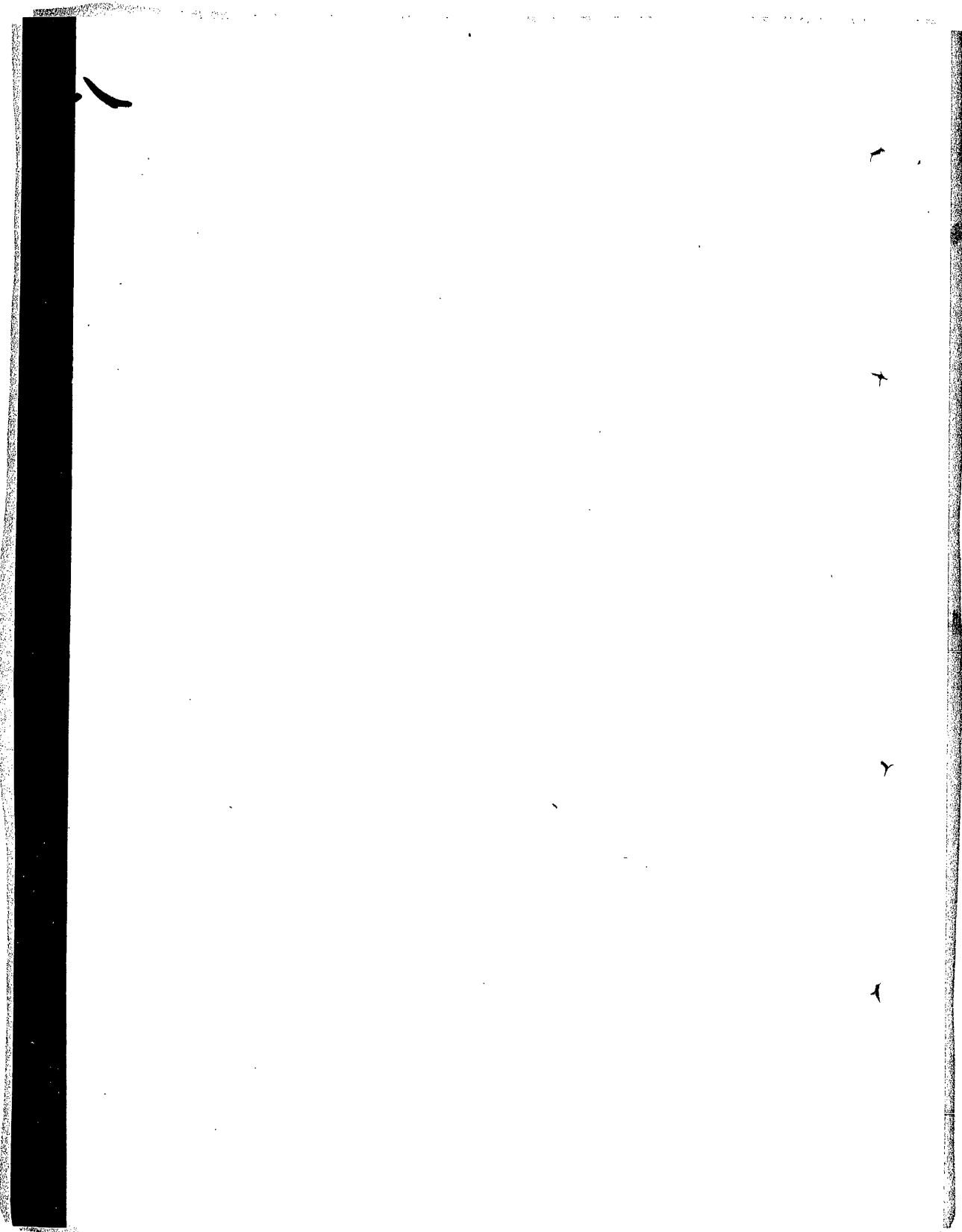
1-1765

0274



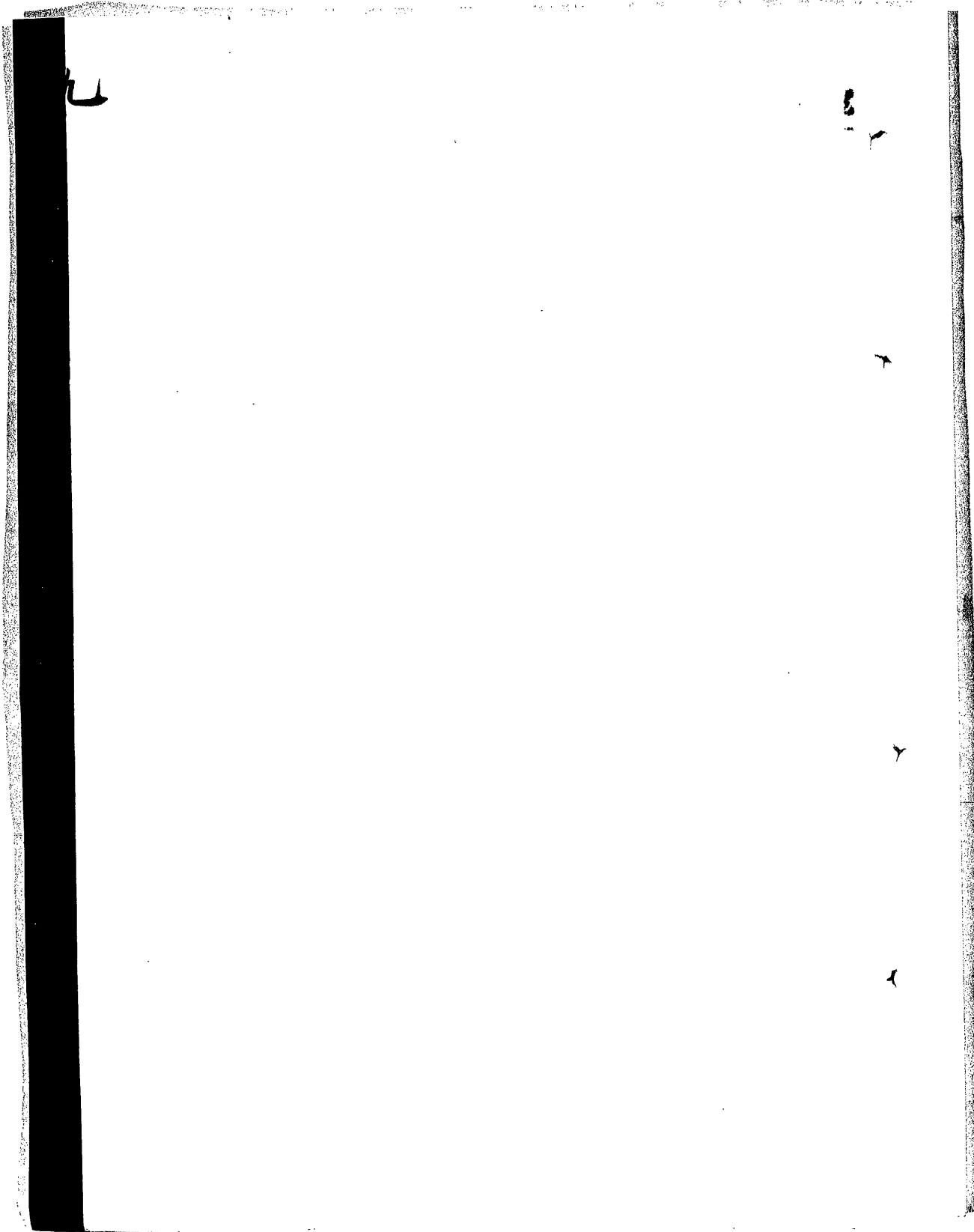
1-1765

0275



1-1765

0276



1-1765

0277

亞細亞局第一課

亞細亞局第一課

亞細亞局長

亞細亞局第一課

大正三年七月廿六日記録係

汕頭海底電信局設置ニ關スル件

一、汕頭英國商業會議所ハ同地ニ於ケル支那通信設備極メテ不確實ナルヲ理由トシテ一九〇二年上海大東電信會社ニ對シ汕頭ニ海底電信局設置方ヲ請求シタルコトアリシカ其後該地著シク發展シ電報亦輻輳ヲ來シタリトテ大正八年一月前記商業會議所ハ再ヒ上海大東會社ニ對シテ海底電線局設立ヲ要請シ一方支那總稅務司ニ右ニ關スル意見書ヲ提出スルト同時ニ他方在留各國商人ノ贊同ヲ求ムルコトトシタリ其際該地英國領事ハ各國領事ニ通牒ヲ發シテ大東會社ヘノ請願書ニ贊成加名方ヲ求メ來リタルニ對シ深澤領事ハ何等本省ニ訓令ヲ仰カス之ニ署名シタルカ當時遞信省ノ意見ハ支

(已號用紙)

外務省

(已號用紙)

那政府ニ於テ同地ノ通信改善ノ爲大東電信會社海底電線ヲ汕頭ニ陸揚セシムルヲ許ス場合ニハ最惠國條款ニ依リテ日本ノ上海長崎線ヲ汕頭ニ陸揚セシムルコトヲ認メシムルカ又ハ河石山福州間ノ陸上電線其他適當ノ電信設備ヲ認メシムル様致度」(大正八年四月十五日附外第一四八號遞信省來信概要)ト云フニアリテ汕頭ニ海底電信局設置其モノニツキテハ別ニ反對ノ意向ヲ有セサリシナリ

一、本年八月十五日汕頭英國商業會議所ハ再ヒ在同地打田領事ニ書信ヲ寄セ汕頭 Community ニ於テハ本件電信局ヲ設置スルカ爲ニ十年間年額二千五百磅以上ノ補助金ヲ支出スルコトヲ得ルヤ否ヤ承知シ度キ旨大東電信會社ヨリ申出アリタル次第ヲ報シ打田領事

外務省

△
既在外に保
牛込市に在
るものなり

ノ意見ヲ求メ來レリ

一、其後我對支電信政策變更セラレ現ニ大東大北兩電信會社カ支那
政府ニ對シ上海香港並ニ上海芝罘間ニ夫々新線ヲ敷設シ且兩社ノ
獨占權ヲ更ニ延長セシメムトシ目下交渉中ナルカ帝國政府ハ右ニ
對シ極力其成立ヲ妨害セムトスル方針ヲトリ居ル次第ナリ
然ルニ近來上海香港間ノ電信輻輳シ現在ノ二線ノミニテハ到底之
ヲ汕頭ニ引込ム餘力ナキヲ以テ大東會社側今次ノ計畫ハ結局上海
香港間第三線敷設ニ對スル北京政府ヘノ要請ニ有力ナル口實ヲ作
ラシムルコトトナルヘク英國側ノ眞意モ亦恐ラク此點ニ存スルニ
アラサヤト見ラレサルニ非ス果シテ然リトセハ本件電信局設置ニ
對シテ此際贊意ヲ表スルカ如キ態度ヲ^{取ル}畢ハ前記大東大北兩會社獨

(已號用紙)

外務省

(已號用紙)

占權延長問題ニ關スル我方ノ大方針ニ背馳スルモノト云ハサルヘ
カラス

一、本件ニ關シ吉田參事官ノ意見ヲ徵^ヒルニ

大北大東兩會社獨占權ノ延長ニ對シテハ北京公使館ニ於テモ固ヨ
リ反對ニシテ極力之カ阻止方ニ盡力シ來リタルハ屢次ノ電報ニテ
御承知ノ通ナリ而シテ在汕頭英國商業會議所今次ノ申出ハ結局右
獨占權延長ニ關スル英國側ノ活動ト目セラルルニ依リ打田領事ヲ
シテ補助金ノ交付ニ反對セシムルヲ要ス
尙張交通總長ニ於テハ曩ニ吉田代理公使ニ對シ兩會社ノ獨占權延
長ニ關スル交渉ニハ應セサルコトトシタル旨内話シタル行懸アル
ヲ以テ(北京來電第五〇三號)在京公使ヲシテ支那政府ノ注意ヲ

外務省

喚起セシムルコト然ルヘシト

(已號用紙)

外務省

(已號用紙)

大正十年六月二十八日北京來電

吉田代理公使

第四六一號

往電第四四一號ニ關シ

大正十年七月廿六日記録係接受

海底電線ノ特權繼續ヲ有效ニ阻止スルニハ客年四月十五日政一機密送第四二號貴信ノ協定成立ノ促進ヲ上策ト認ム。中山ノ談ニ依レハ右案提出當時ノ交通部ニ於テ大体異議ナク依テ同部ハ他ノ關係各部ト協議中ナリシモ「ヤツ」問題起リシ爲本件其儘トナリ葉恭綽時代ニ電政司長ヨリ重ネテ總長ニ申出テシモ葉ハ何等措置ヲ執ラス懸案トナリ今日ニ至リシ次第ナルカ最近ノ機會ニ本官ヨリ張志潭ニ懇談ノ上中山及司長間話合ヒノ進行ヲ懇懇スヘシ

外務省

河野

第12484號

附屬書類添附

大正拾年拾月廿九日接獲

亞細亞局

第二號

機密 二五

別紙添付

大正十年十月十八日

大正十年七月廿六日 東京 郵政省

在汕頭

領事代理 打田 庄六

外務大臣 白鳥 内田 康哉 殿

汕頭ニ海峽電線敷設ニ関スル

本件ニ関シ當地英國商業會議所ヨリ
大東電報會社ニ建議、次第ニ就テハ
去ル大正八年一月二十一日附機密第一
號ヲ以テ當時領事事多由委曲報
告アリタル通ニ有之候塊 具後本件ニ

在汕頭日本領事館

關シテハ何等開知スル所ナカリシカ同
商業會議所ト大東電報會社其他ト
ノ間ニハ引續キ交渉アリシモノ、如ク今
日當地英國商業會議所ヨリ別紙申
寫ノ如ク突然本官ノ意見ヲ徴シ来リ
申候表面ノ問題ハ資金調達ノ点ニ
有之汕頭ニ於テ果シテ所要ノ金額カ
出資ニ得ラル、又否今日、処未分際則
難致候ハ其回答前ニ應 政府ノ所見
兼知致置度候間何分、極至急由
訓示相成候様致度此段及請 訓
具
本候寫送付先 在文公使

1-1765

本
有

COPY.

The British Chamber of Commerce, Swatow.

Swatow, 15th October, 1921.

S. Uchita, Esq.

Consul for Japan.

Present.

Dear Sir,

With reference to the Memorial signed by you Mr. K. Ichikawa and addressed by this Chamber of Commerce to the Eastern Extension, Australia and China Telegraph Company, Shanghai, regarding the improvement of Cable Communication between Swatow and the outside world, the following telegram is received from the British Chamber of Commerce, Shanghai:-

"EASTERN EXTENSION WANT TO KNOW WHETHER SWATOW COMMUNITY WILLING TO PROVIDE ANNUAL SUBSIDY OF NOT LESS THAN £ 2,500 FOR TWENTY YEARS."

The sum of £2,500 is taken to be half the working expenses per annum should the Eastern Extension lay a cable into Swatow. I shall be pleased to have your views on the matter as soon as possible.

Yours faithfully,

for British Chamber of Commerce

(signed)

Hon. Secretary.

1-1765

0282

大正拾年七月廿壹日 接受 亞細亞局

第二課

遞信省

外信第四六八號

大正十年十一月十

遞信省通信局長

遞信省
通信局長
印

外務省亞細亞局長殿

大正十年七月廿六日 記錄 接收

汕頭ニ海底電線局設置ニ關スル件

對十一月三日附亞二機密第一一九號

本件ニ關シテハ大正八年三月十五日附外第一四八〇號ヲ以テ申進候
次第モ有之候處其ノ後我對支電信政策變更セラレ支那政府ヲシテ千
九百三十年以後大北及大東兩會社ノ同國ニ於ケル對外通信上ノ獨占
權ヲ延長セシメサル方針ヲ執ルコトトナレルハ既ニ御承知ノコトト
存候隨テ本件汕頭ニ大東會社電信局ノ設置ヲ帝國領事ニ於テ公然援
助スルカ如キ手段ニ出ツルコトハ自ラ右兩會社ニ對シ上海香港間ニ
第三線敷設ノ口實ヲ作ラシムル結果トナリ面白カラサルヲ以テ我國

132904

1-1765

0284

トシテハ本問題ニ關與セサル様致度此段及回答候也

逓信省經理局印刷

1-1765

0285

大 次 官 亞 細 亞 歐 通 條 情 人 會 文 平
臣 官 亞 米 商 約 報 事 計 書 利 條

要再回
機密

文書課長
大正拾年三月五日接受

69
(甲號用紙)

文書課發送 大正拾年三月六日發送済

淨書

正校(原稿)

淨書

淨書

主 亞細亞局長 了

任 亞細亞局長

(起草大正十年三月廿九日)

機密 第一三二號 大正十年三月六日附

別紙

附屬書

通

受信 通信局長

人名 通信局長

發信 人名

芳澤五郎通信局長

件名 汕頭之海軍事務所設置

級 込 名

本件之案は十月十九日附外信第百六十八号に於て

信内回答、趣意致候に於て之を以て令般別紙字、

通在支少艦公使在汕頭打田館事代理、其之訓

公 信 案

外 務 省

令致還候之件在移、承知相成後、此経申送候也

別紙

在汕頭海軍事務所設置
一九〇号
芳澤五郎通信局長

文書課長 大正拾年三月 五日接受 (甲號用紙)

文書課發送 大正拾年三月六日發送濟 淨書 (原稿) (淨書)

主 亞細亞局長 任 亞細亞第二課

機密 第一九〇號 大正十年十二月 六日附 別紙 附屬書 通

受信 在支 人名 小幡 不便 發信 人名 内田 大彦

件名 山形海軍電信局役員之 買入ル件 名 込 綴

本件之買入在汕頭打田領事代理ヨリ貴官へ呈呈 附海、本年十月十八日附機密第百五号ヲ以テ請訓 一、海軍省之候由今般別發定一通回訓致還候也

公 信 案 外 務 省

右ハ大北大東亞會社ノ独占權延長之案ニ提議シ
毛國聯之英國側ノ劃策ト被認候ニ付貴電第
五〇三号交通總長ノ言明ニ鑑ミ此際特ニ同總長ノ
注意ヲ喚起セラル、極致迄高前此兩社独占權繼續
ヲ抑制之阻止スルニハ貴電第百五号ノ通電第百四十五
口附機密送第百二号通信大協定成立ノ促進ヲ上策ト
被認候ニ付、中山ト毛氏打合、上可成速ニ該協定ヲ
取纏リル、極可成、此措置相成後此般申進候也
別紙 在汕頭電信機密第一号送付(二)

要再回

大臣 次官 亞細亞 歐米第二課 通商 條約 情報 人事 會計 文書 平和條約

何十号

大 亞 歐 通 條 情 人 會 文 大
 官 細 米 商 報 事 計 書 局 第 二 課
 要 再 回

文書課長 案
 大正拾年三月 五月接受
 文書課發送 大正拾年三月六日發送済
 淨書
 正(原稿) (淨書)
 乙 號用紙

主 管 亞細亞局長
 主 任 亞細亞第二課
 (起草大正十年十一月三十日)

機密 第一 號
 大正十年十二月十一日附
 附屬書 通

受信 在油頭
 人名 打田領事代理
 發信 內田大臣

件名 油頭海底電信局設置ニ關スル件
 名 込 綴

本件ニ關シ十月十四日附機密第二五號以貴信御申越ノ趣閱悉右八大北
 大東兩電信會社ニ於テ目下支那政府へ提議中ノ上海香港第三海底線增
 設並ニ該社對外通信上ノ獨占權延長問題ニ關聯シ其ノ希望ヲ達セムト

外 務 省

(已號用紙)

スル英國側ノ劃策ト被認候處帝國政府ニ於テハ支那政府ヲシテ兩社ノ
 提議ヲ拒絕セシメムトスルノ方針ヲ執リツツアル次第ニ有之候間本件
 補助金ノ支出ニ贊同スルコトハ自然英國側ノ劃策ニ陥ル次第ニテ到底
 我方ニ於テ同意スルヲ得サル處ニ候去リトテ我方ニテ本件補助金支出
 ニ反對スルコトハ其ノ理由ヲ説明スルニ甚タ困難ヲ感スル處ナルノミ
 ナラス曩ニ深澤領事ニ於テ貴地英國商業會議所ノ通牒ニ署名贊成シ居
 ル行懸モアリテ正面ヨリ本件補助金支出ニ反對スルコトモ面白カラサ
 ルニ付貴地ニ於テハ差向キノ處英國側ノ爲ス儘ニ放任シ置キ我方ニ於
 テハ本件補助金支出ニ關與セサルコトト致度ニ付本御含置ノ上可然
 御措置相成度尙本件此ノ後ノ模様ハ隨時御報告相成次ニ前記大東大北
 電信會社關係ノ問題ハ北京ニ於テ極メテ内密ニ措置致シ居リ機微ノ關

外 務 省

係アル次第ニ付貴官ニ於テハ本問題ニ一切觸レラルコトナキ様致度
爲念申添候也

(E 兼用紙)

外務省

1-1765

0289

華盛頓會議

山東電信解決

大正三年七月廿六日記録係接要

十九日山東電信解決の海底電線及び無線電信問題の通り解決した

一、芝罘青島上海間海底電線の権利を現状の儘支那に引渡す

二、佐世保青島間の海底電線は引續き日本に於て領有する

三、日本軍撤退次第青島、濟南の無線電信設備は支那に譲り渡す事

支鐵平等可決

十九日支鐵委員會議で支鐵の平等待遇に關する英獨全權オークソンドラゴス氏の演説が本國全權ヒューズ氏の決議は何等の修正なくして可決された支鐵問題は分科委員會議に附託の豫定の議案たる現存の條約に關する項目に進み本國全權ヒューズ氏は若し各國にして支那との間に秘密條約を結んで居るものがあれば二十日までに支鐵委員會議に提出すべきことを求めた

東支鐵道委員附託

支鐵委員會議は進んで支那の鐵道問題に關するが英獨全權ヒューズ氏は諸委員に當面的待遇を爲さざる可しとの決議案を提出した次で支鐵委員會議の閉會に入り諸委員より各一名の委員を委託して報告することとした

新聞 大正三年七月廿一日



(已號用紙)

大正十年七月十四日北京來電

吉田代理公使

第五〇四號

大正十年七月廿六日記録係録

往電第四六一號ニ關シ(大東大北海底電信問題)

十三日張志潭ニ該協定ノ日支兩國ニ有利ナルヲ説キ若シ支那カ「ヤ
ツ」問題ヲ顧慮スル譯ナラハ其線ヲ除外スルモ可ナリ又特別ノ取
極ヲナシテモ可ナリトテ同電末段ノ點總總シタルニ張ハ本件大要耳
ニセルコトアリトテ篤ト研究スヘキ旨ヲ語レリ

外務省

1-1765

0291

二綴込名
件名

華村券
本者着
大正十一年一月

廿六日午後七時廿分
華村會議全権

内田外務大臣

會議第四七五號

第三十回山東交渉(一月十九日午後)

大正十一年七月廿六日記録係接受

和海底電線問題
我方ヨリ青島上海間及青島芝罘間電線ハ之ヲ
支那ニ引渡シ青島佐世保線ハ引續キ日本ニ於テ
保持スルヲ而シテ支那政府ニ於テ計畫中ノ上海芝
罘線ヲ青島ヲ經由セシムル案ヲ提出シタルニ支
那側ハ上海芝罘線青島經由件ハ政府ハ訓令ヲ
經ルニ非バ何事言明ニ得ズ又青島佐世保線青

島陸上ケニ関シテハ何等訓令ナキヲ以テ直ニ應
諾シ難キモ日本政府ニ於テ之等海底電線ニ関シ
支那政府ノ權利並大業大東兩会社ノ權利ヲ認め
趣ナルニ願ヒ青島佐世保線ニ付テハ本件ニ関シテ
支那政府ノ立場ヲ拘束スルコトナク本件ニ関シ北京
ニ於テ協定スルコトニ同意スベシトテ日本政府青
島上海青島芝罘兩線並左ニ関スル權利特許等ニ
関スル一切ノ要求ヲ拋棄ス但左兩線中日本ニ於テ
青島佐世保線ニ使用シタル部分ハ之ヲ除ク
左青佐線ノ青島陸上ケ件ニ関シテハ兩國委員
ニ於テ協定ヲ遂ケルハ支那政府ハ現行契約上
ノ關係ニ顧ミ本件諾否ヲ留保ストノ案ヲ提出

シタルニ依リ敵幣原ハ世果上海線ヲシテ青島ヲ
經由セシルノ件ハ何等支那政府ノ權利義務
ノ問題ニ非ズ又日本ノ利益ト言ハシヨリ寧ロ支那
利益ニ関スル問題ナルニ付在ノ矣ヲ本協約ノ系
項トセザル迄モ支那委員於テ本政府ニ進言
スルトコロアリタシト述ベ支那側ハ日本全權ノ
希望ハ之ヲ本政府ニ通達スベシト述ブ(續)

Radio stations (other stations
confined to naval and
military services) which
are engaged in communication
between the above-mentioned
regions, and which belong to
or are controlled by
the Governments concerned,
or for which they may
hereafter give concessions,
shall accept press traffic
at such rates as shall
ensure a total radio
charge (exclusive of

1109
時

Washington, 1922.
Rec'd., 25/1, 6:50 pm.

Saimundaijin, Tokyo.

會議 第四〇号 別表。

with a view to
promoting the interchange
of news between
China and other Asiatic
countries on the one hand,
and the rest of the
world on the other hand,
the Signatory Powers agree
as follows:

大正十一年七月廿六日記録録録録

三三

receiving station, and
one unit for each
automatic relay station.
Zerker.

(^{7/18}) Terminal
charges), between Asia
and other quarters of
the globe, not exceeding
ten cents if not more
than one relay station
is normally involved, and
not exceeding 12 cents in
other cases. This total
charge shall be divided
between the stations con-
cerned in the proportion
of one unit for each
transmitting station, one
half-unit for each

Wasebo, it being understood that the question relating to the landing and operation at Tsingtao of the said Tsingtao-Wasebo cable shall be arranged by the Chinese and Japanese commissions, subject to the terms of the existing contracts to which China is a party.

Jenken

1153
(06)

Washington
Received 9.30 a.m. Jan. 1922

Gaimundaijin, Tokio. SK

No 476. Betuden.

Japan declares that all the rights, title and privileges concerning the former German submarine cables between Tsingtao and Chefoo, and between Tsingtao and Shanghai, are vested in China, with the exception of those portions of the said two cables which have been utilized by the Japanese Government for the laying of a cable between Tsingtao and

大正十一年七月廿六日

土生土東園係

秘

大正三年七月廿六日 龍橋保藏

批事 大正三年七月廿六日 龍橋保藏
内閣外務大臣 小幡 公使

山會 其二四三 第一

送來青島守備軍法院、於「軍法」法
令、依「民刑事」訴訟行為、裁判
處分其他、手續上、行為、守備軍
撤廢、同時、其動向、喪失スルコト
トナルハ、其「軍法」於「ハ」左記
客「有ル」經過法、憲法、陸軍省ニ
請中「ル」處、同省當局ニ於「ハ」法ノ根拠
「有」經過法、及「不」困難ナルベシト
意見、有ルニ、如「又」法判句ニ於「テ」

日支電信直轄路途中ノ入力

右「在」市「ノ」隣路、ハ「模」樣「ナ」ル「カ」當「方」トシ
「テ」ハ「今」回「ニ」別「言」支「持」ニ「於」テ「支」即「例」ニ「對」
シ「テ」送「來」法「院」ニ「行」テ「為」ル「ル」是「等」新「設」
行「為」、憲「法」上「ノ」支「持」心「組」ニ「於」テ「ハ」支「即」
「部」ニ「對」シ「テ」其「他」者「ニ」對「シ」テ「ハ」於「テ」支「即」
人「ノ」被「告」ト「ス」ル「事」件、支「即」裁判「所」ニ「於」
テ「ハ」裁判「所」ノ「効」力「ヲ」認「定」ス「ル」事、新「人」ノ「被」
「告」ニ「對」シ「テ」ハ、新「設」法「院」ニ「於」テ「ハ」
「程」起「ル」カ「バ」ハ「リ」テ「ハ」
郡「會」ニ「於」テ「ハ」
此「裁」判「處」分「註」明「ス」ル「事」件、
行「為」ニ「對」シ「テ」送「來」法「院」ニ「於」テ「ハ」

餓ニ於テ再體起スルハ力ヲ盡シテモ其ノ
ナラザル事態ニ生ハバテ此ノ積弊ニ於テ經
過法制定シテ其要明自ナル所ニシテ其
期ニ切迫シテ其意ヲ盡シテ其ノ所ニシテ
ルニ付テハ其ノ所ニシテ其意ヲ盡シテ其
之然ルベク其ノ所ニシテ其意ヲ盡シテ其
(續ク)

1-1765

0298

其字及...
...

内田外...
...

山會...
左記

一、青嶋守備軍...
...

許... 系列... 其他ノ手續上ノ行為
...

二、法院... 作成... 公正證書、確定日

三、青嶋守備軍... 規則... 依リ... 作成... 同一ノ
...

四、青嶋不動産... 規則... 依リ... 作成... 同一ノ
...

コト

五、法院ニ於テ取扱ムル刑事事件及該事件ノ法院廢止ノ際日本領事之ヲ引継クコト

六、右第一項乃至第四項ノ規定ハ既述ノ行為ニ付テモ適用スルコト

1-1765

0300

面倒に なつた海電割當

伊太利が承認しさうもない
【海電割當】(大正三三) 大正三三及前、海電割當の交渉が、伊太利政府が大西洋に於ける海電の割當に關して、何等かの協定成立する迄は、太平洋海電の割當に對して承認を與へさうにないからである。

大正三三年七月廿六日 眞鏡録抄要

東京日日新聞 大正三三年一月十九日



10

1-1765

0302

電信課長



海軍省係留記録簿

大臣

次官 桂

11226 平 〇ルリ 表 去十年八月七日 〇三〇

主通

亞細亞

環首付了

内田外務大臣

川上公使

歐米

第五二號

通商

當地意力造激派宣傳機關紙、ワルアスキート

條約

一口区八月四日 報ニ據ル方農政府ハ露國ト下

情報

株日本及ビ支那ト同ニアル海軍電線ノ経営ヲ再

人事

ニ大北電信會社ニ許可ス事ニ決定セリト云フ

會計

英米併白瑞典郵 撥

文書

平和條約

通

第3門

1-1765

0303

大 天 皇 御 下 通 條 人 會 文 平 和 條 約 書 計 事 報 約 商 米 亞 官 臣

要 約

第 一 門

要 約 付 子

文 書 課 長 松 原

公 信 案

大 正 十 年 八 月 十 二 日 接 受

25

紙

(甲 號 用 紙)

文 書 課 發 送

大 正 十 年 八 月 十 一 日

淨 書

(5)

正 校 (原 稿)

(印)

(淨 書)

(印)

主 管

亞 細 亞 局 長

任 主

亞 細 亞 局 長

報

機 密

普 通

第 一 號

大 正 十 年 八 月 十 二 日 附

附 屬 書 通

受 信 人 名

亞 細 亞 局 長

發 信 人 名

田 代 臣

件 名

波 蘭 上 海 通 商 條 約 報 告 書

綴 込 名

公 信 案

外 務 省

波 蘭 上 海 通 商 條 約 報 告 書 一 冊 在 此 附 送 及 郵 送 附 送 也

在 波 蘭 上 海 通 商 條 約 報 告 書 一 冊 在 此 附 送 及 郵 送 附 送 也

1-1765

0304

回覽

第五編

1326 平ノリイ家 去十年八月七日辰三〇三〇
内田外務大臣 川上公使

三〇

當地有力造幣派宣傳機關「ワルウスキ」

（手紙の付く）

報

一、八月四日「報」は、地方農政府の「電報」ト下

「大」電信令社に許可を事、決定せりと云フ

英独佛自瑞典郵報

写真

1-1765

0305



1-1765

0306